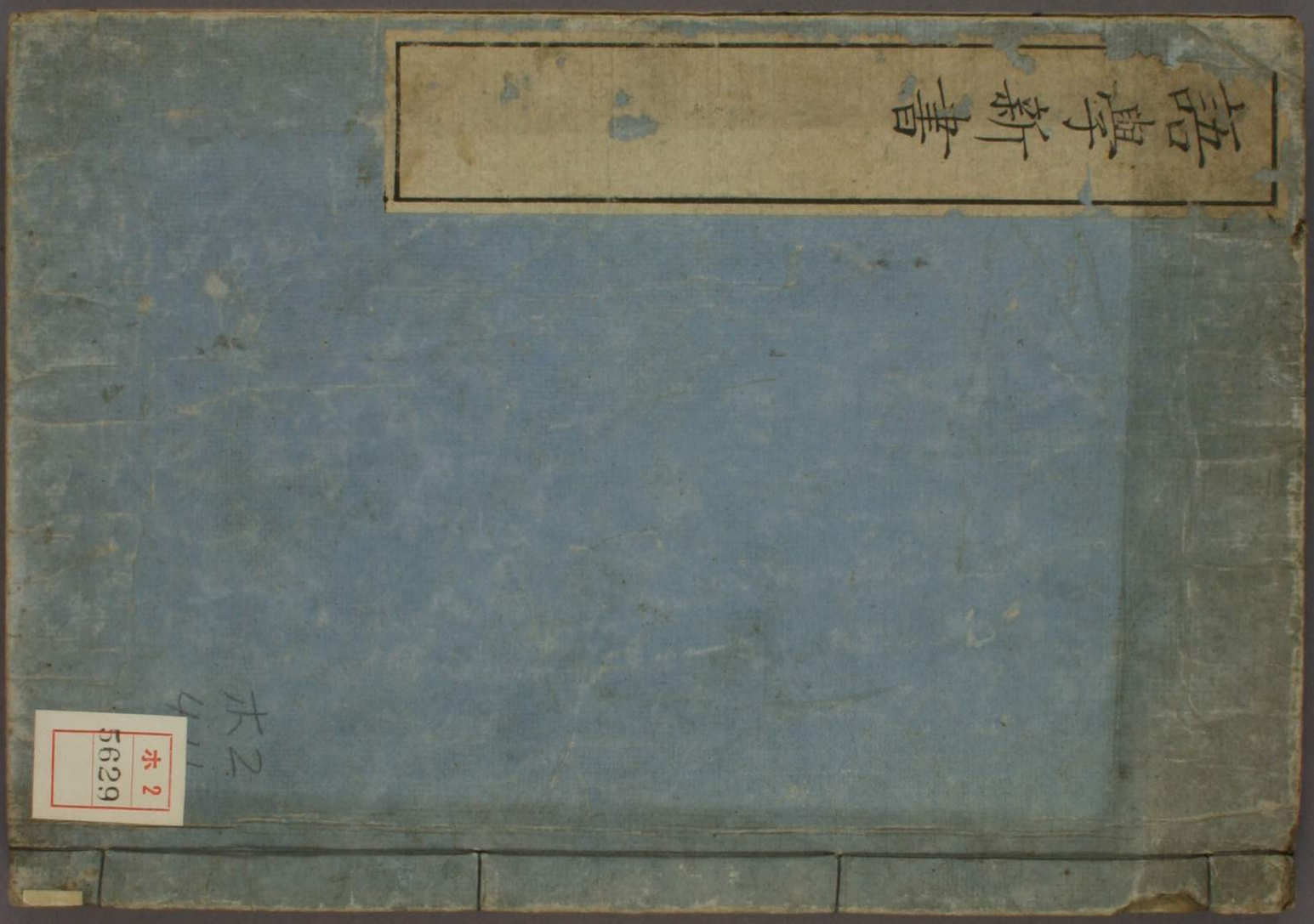

ホ2
5629

門 ホ 2 號 5629 巻

和 壱 光 士 冊 號 函

語學新書

全部 二冊

此書ハ中橋鶴峯先生の精選ありて言語文字の品格を論定し歌文詩章の圓活を開示せる所なりそもそも　皇華の帝尓乎波格漢土の熟字法印度の八轉聲十羅聲西洋の十品四格等ハみなこれ言語の名派を正せし学術ありて幼年の間より学びたる要法なれを方今此方の俗ハ霊至妙の徳ありを浴し居ながらけて言語文字の品格をわきまへずて白髪の年にいたるまで讀書作文準的なく脩辞の間帝尓乎波およひ假字づかひを誤まるのみならず古博士家のをしへにもたがひていふべきひがことし今此書ハ宇内を合せ古今を總べ語學の要領を集大成せられたり諸子百家を論ぜんにもしくも書を讀み辞を脩むる乃君子ハかならずひもとき給ふべき書也

塾生等識

早稲田大學圖書

刻語學新書序

予寒郷鄙人於文學毫無知解然人心之靈莫不有知敬謹敦厚吾知其可尚矣貪谿残詐吾知其可戒矣乃知鶴峯先生之能導人於學當與從兄易信相共從之先受其語學矣蓋以其所聞曰琢玉者必治錐鑿學文者須明語法不解語法而脩辭猶無錐鑿而琢何能成器邪夫性靈所鍾秀氣成矣

皇華言辭傳於天上聲韻清朗品格精密貴賤男女平生語言造次顛沛莫有所違海外使人至驚嘆以為奇事不亦宜乎然至其施諸漢字則自非併語法之與字格而能熟滑焉不能莫錯謬也於是古博士家之學建助辭法以垂憲章孰不遵此後世儒者不事語法讀書作文不辨主客豈唯言見賢變色犬馬養人類哉良可嘆矣印度有八轉十羅聲遠西有十品四格與我語法雖精粗不同其義不相戾鉛槧之士不可不知也我先王求美于野百家之學莫有不備矣而如夫八轉聲原是訓語之法漢譯唯傳其義而失其音至十羅聲則音軌俱无傳而我所求唯在漢譯是千古人之所以不能悟其法也物子解書殊多牽強矣而如論其文法以形狀作用聲辭物名四者為準稍可庶幾於語法也至法住師著攝八轉

義是亦固有所未盡而論梵則者舍此書將取何書乎同時本居冨士谷二公起而專論歌文助辭繼志築藤林諸氏出而盛譯遠西語書文運既動語法將振焉唯恨其親彼者疎此親此者疎彼而未嘗聞有合彼此而大成者矣鶴峯先生學極宇内識洞古今折中諸家而著語學新書劈肌分理沿波討源證據的實昭然可鑑豈非合彼此而衣被學人者哉予於文學毫無知解亦知斯書之宜傳不朽因與同門諸君相議遂請以刻諸梓敢題此語爾

天保四年癸巳仲春

參河　島田易清謹識

臼杵藩河村脩縣　書

推深也年ゝ霊秋深ハ。天地下のしてて
深ゐ通中に藤氏。夜に猿安つきて宮すれ迄
遊まれ丈つてのくみよく。求年壇耳兼に。
画に味ふ年て。此所に生き。成る輪之飛
あひ立る人。事る深よ味かれ深く。備臥す
新人ありし。天竺。雷屋ふ河義經伊之羅の
古わく登。に井時候を戸しつし。さ之起

我道はうるはしからねば。人の自性をしるべた
これハしく生(オヒ)たまふ。おしいづくを本をる
なるみをまるやうあれども。いまゆ経廣くして
様ぞ。ひとへに思ひし教のゆゑなり。儒佛乃学
尓ハあ諸。何の業師の学ありあ接てもとも
與に我相ひ人の実。[illegible]いさかを立たる。
ゑに舞すなわちてありどそ一(ヒトツ)の[illegible]

たんまんなる教もてすぢく。虚名を張する輩
なきがちに。いづ諸亜を[illegible]より。なぎさを
我よく学び悟りより此ぎ神ぢ之。然神乃
本国にはち。神の道ひたすら尊や学ぶ。何
るも何ま。ど諸道をど説文和を学ぶべきあ
と思ひ。我まん役の恥を求めなきにハ
やされバ儒学者とし[illegible]ハ。儒佛。佛

俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。
俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。俳諧。

こゆるぎ径。よろの此翁が世のまたながらへむ
あらん日。まづ試(こゝろ)みてはよひよみぬべく記す。天保
四年上元日。松屋主人平小山田與清序。

おほばそなる乃あた堂して絹それらしう年
を経てちかが乃あたりてれは。みなうむろ家かむろみの只ちと乃ぞじゆたま
ひさかたのまへながみくに。その言ばの道ばうか。くしびにあやしくめ
でたきは。詞ら言霊なりうみ世の常るあと紙を継ぐ代々うめめ新しへれを
きみのたゆみなとあその志に心をとうぞらまことばよ世々をしる
乃みち子うかせば。さうらずもすみあざりてら世のひがをさきってむ世の
子らにあるひとぬらきみじうれなふわざまてうらへうよりて世々さきば
と川ぶみの初たへ。本を記えつちれしがめれとた。いざ新と心得あまつうみ
以まぞかりをれそのからとにいつぎたるうみ子むけあまやおくあじをあ
秋ひとぐさにつてへぬまひたる。か務その心得新ざふは。うそにふのをれお

かなのみちありといへるハ、いとふるきかな伝しきらなにおほみよのいよ
〻へむかしハふる代のおとこたちさへ、そのしらざりして、それのづからなるく
たゞしかりしを、えにしへまでことはば乃たへなりて、いさゝかなるを
かきたがへなきしのおぼえずとも、まなばゞ、おとなそなへまなぶこちとてハ、筆こく
ざりつる、そのきはむべなるしたがひて、ゆきてハ、あとだなれ八十乃ちま
るの志かさだめもさとしむることにあらざれども、ゆるづゝをなしくしたぞよし
定まるされバ、いまれ世まことハ、それそちの玉ぞしぶこ、をくよみて、その
いすへかりをうかゞへ志るぞ、やがていまれ世の いすへぶりを考ある
信ようくてあなばのみちれをのよかびなこゝろてふをは乃さだまりあな
がらく、かゝれさて乃らぶくみまおのかくそのそだれこちあぐる八様

の名こなたに、なりてよりて、くさぐさなわらきさとめ、そのたくへハ、こゝろわかせ
こそくらべの事のみたまなるよりて、うこりし事よれるあとば乃さだまり理に
しあ先祖ばこゝよみふこつくる世のうごき、かなりしぞおなじきとなるべきみち
あるそのうゑがかくさなほふもちる、それの名をたゞ志らでそぐなりん、いと
くちそしかむぎあらびや、志らハあまたがあるハ、それ名のこゝろはかりて、その
こちハちるゝがなこほしくすなほなる、あるハそれ法へ字あまだらなれ
こそぞハてかのかぐみうつしえがこゝろすゞきなれはうつれるをそれの種志だ
のなゞなつさしてれおもひをとこがしめることゝ志りゆくの心に始めまるまで
いりまのの理ぬあることもあきらかぬまのそかうつゝまういりぐからうぐ
えたる家しまいできたもるそれの物語うぬあつかいなみえたる家、いまよ

ものとせむと世をうれたくおもふやあまたそがそのようにあるべかりけるみと
いへるいたびとゝいめづらのまさを酔むもれ世もちらしてみそのうゝま
つくらしちよいまこの家ゝハをはてびとゝをゝとのみるさだそのいへみる
ものまはびを鶯ゝいとうれたるまさにあらゝてあるゝくれの色ゞさとを
るゆゝ沢をぎがうへ乃鶯ゆたがハぞうつしとうせたるかゝんあてれるゝと
てまうゝやうふうつしやうたる沢ゝ色ハ。いまよ世拾くさゝらゝ葉のたる
ぢゆきうゝをめゞゝのその志を世ともるゆとぬべくゝ鶯りそ発たるあをや
ぎゆ。いとおむゞくれめいるゝも。おき志うしゆゞらおとだまれさちそひ
たをとる志るゝ。ゝ。ふふ美の名沢あとゞ美沢居れあたゝしぶゝら
おほせて。そのゝ。いさゝうかきつくるハてむゞうの世とゝをとゝいゝ

世志を決のうちぞうめ。をとうれたびやどりふるむ。

ねるみ世れ志ゞのゆ

語学新書序說

門人　尾張　斉爰春昌　撰

此書を必ず詞の玉宮と名づきて、九品よ九格、九格を附録よ二巻をべて二十巻よ至り、さて八爰業のその勝写またやもそうぬハ同盟あひとりめて、つひよ師よこひて、本書ハ志ゞよを節して二巻とするつるを名をまあらためて語学新書とハせらるたるなり。

○師いとく、天地の間一切ハ物あるゞよ二天の創業志給ふ所ゑ里。中ゑも言語の名ハ玉天ふ玉めある。神世の古訓もおまよりて伝ハり、聖人の名教もおまによりめて流ゞたり。天下古来語法をいふものゑ里げ皇国よ帝ハ平波あり、漢よ韻法塾字法あり。梵よハ轉声十羅声あり。蘭よ十品四格あり。ミみこれ前聖の究理よおて、言語文字ハ品格をさとゆみちより、戊申語名を正して諸象を折中し、論定して九品九格とゆ。世間よ量りよ紀貴賤男女志らぬくまの則よ順ゞひ、平生の語云よく呼びよく應ゞ差ふ所あることあり。ぬまく其格を失ふものハ、たゞ初学脩辞の習よあるのミゞだし平云ハ天工よおづ、故よ差錯よし、脩辞乃如きハ人為よおづ、故よ謬乱あるゞいよ戊申学者をして、謬乱の弊おゝらしめんとれめふがゆゑよ語法を講ゞそゑ諸子百象の書ひとつ必ゝて語云よあらざるをれゝ、志ゝうに語云よ拾てこの格式あるとゝ紀ハ、書を讀よん人、辞を脩めん人、あゞらこれをまゝバざゝん。

○師いとく、天下ハ云語かゑきこゑ同じゝらざれゞゝも、言語の別ハ二等よハるゞり、そハ一つよハ訓語、二つよハ韻語よ里、をべて五大洲

の中に韻語あるハ漢と字音とのみにてこのゆゑハ皇国より印度諸国にあるまでこそ訓語なりくその別ハ二等にわかれあり然いへどもその語法に拘てハとるに一種にして其法〻ぐ一つにして二つあることなく独るに漢籍を讀むにうまハ順逆廻環なるにつて世人ハいとく異様なるやうにおもへりかくとくさまどそいかゝとみにおもへりこゝとまてこそ其さをハわきまへ為ん為ん壁へバ明人のうゑ〻ぐ廻環の讀にて訓語ハ阿氣那塔那草里復那一屋那ゆ〻歌方ハ歌詞を註せるがめき讀法ハ秋田収稲結舎省守おるがめし をしまこ廻環の讀に嫌あらてもさハ秋田収稲結舎省守おるがめし をしまこ廻環の讀に嫌あらバもぞ〻〻く塾字を撞し漢呉二音便に從ひ直讀をべし さきど語法をまねぐぞハその塾字をかゝあゆきとぐゝぎるべし そもく語法ハ云語文字ハ名泥を正をハ仲尼ハ さまねことをも思ひ為て世の學者たちの講出作文などまに〻謬妄のあるこてハ他にまへ此學をさとぐゝるか故に壁へバ論語の學而時習之ハ ぐ〻ぐ学字ハ去活用云而字ハ逮及接續云とあり時習之三字あひ連まりて時字ハ時令形容云習字ハ現在活用云之字ハ再說代名云と云〻〻めし をし是等ハ字各〻連まり〻〻各〻分離せバ為人の課仕にて箕踞したらんがめくその士〻る農たる何をもて〻あ〻つ為にまにまとあひ連續したりやも をし語法を云〻をハ時習の時も使民以時の時も ひとつまにまひよがへてんされバ衣冠ハ人

正河分別をる所 塾字ハ語法を分別をる所なり 物氏文章を論をるに虚実死活の四つを準とをるハ〻つぐ語法にをのつきたるみれどもいまこ九品九格にまかよバさ〻〻ゆゑ時習の時字をもときひがめたり学者これをたゆ〻

○師いとく悉談章ハ二種の釈あり一つハ深秘二つにハ浅畧にさてヒゲ説くところハ浅畧ハ釈にして深秘にハあつ〻〻悉談字毋四十七字ハ梵天の所製 梵天をまこ大自在天と號 梵人の傳説にハ此にハ三類あり其六天の主を伊舎那と號をといへり伊舎那ハ暗にハ二呉ハ尊称に渉をり梵文をまこ二呉諸神の所教に係るとをるべし義浄ゞ南海寄帰傳に據るに大自在天の所説ハ悉談六歳の童子六月に学びかハる次に蘇呾羅にまこ駄覩棄攞等ハ章あり蘇呾羅ハ声明の根本北天竺乃健駄羅国を波尼仙ゞ造をるに駄覩ハ別そら字元を明せり棄攞ハ荒梗の義田夫のゆ〻きばをるゞめし分ちて三章とハ一つにハ頻瑟吃七例十羅二乙韻などを明せり二つにハ文荼合成字を明せり三つにハ鄔拏地大に前例に同じ廣略を異とをるのみこをを三荒章といふ上古書を作をて蘇呾羅を釈を其類いと多し

そゞ中にハ中天那爛陀寺ハ学士闍邪昧底ゞ説最妙なりとそそれ後学士鉢顛杜攞伐掇弓利等ゞ輩あひつぎてまゆ〻其義を詳ゆ〻あきらハ諸書国中通じ學ぶといへり そも人生をて八歳ゆ〻て小学ゆ入り十有五歳ゆ〻して大学に入るハ漢家のさ〻ごまして悉談にまこ西洋の

語法なども、さる少年の学術より、ちうるにいはゆる、わが玄昊のはきさふ
皇國人として、白髪まいとるまで讀書を通ぜずしてみをはのやうのへ、
うなづうひのさゝ級をもわきまへざるものもあるはいうまでやさき
こゝ少時語法を學ばざるゆゑのつみこゝまうれ外国学術のかる
ひきまなぞらへても、そのおもひのくゝめまはうゑゝびすづ語法を
さとゝ屈きことをちるべし。古代博士の学風もかうあるべの
をや。

○師いそく、西洋の文字をやゝ天竺より出たりとゝみは、亞辣比亞人の
說なりやいへり。されバうれ空別世二十六字ハ右行伽書二十五字ハ
流まして十品四格の如きも、八轉十羅まる原ゆるれまゝ。

○師いそく、帝尔乎波ハ、元来古博士の助語点本よりおて、その法精
微まして、語法をいふその正を取るくゝめ社ゆ戊申まゝられまゝ。
まて、語法を講ぞるこをえてう、きゝし体用二言ふおのく助辞あり
てまゝ仟云の助辞まる能所めの別あり。能所ハまる君臣のごとし。さて用
言の助辞うゝ〳〵能格を結ゆらと、まる民の君王まる仕奉ゆがあとし。
帝尔乎波の各ハ君臣民の三つを總括そるよゝ。其法ハ既まる詞鏡まる
あゝハせるゆめしうの鈴屋翁の紐鏡の加まハ、帝尔乎波法ゆ一の書
ゆもいふ屈ゝまど、あゞ君と民とあるうゝをちりて、いまゞ臣あるこ
とをちゝ〳〵能主格君位の辞れゆ一等ゆ、波もと徒とを置まゆ二
等まる、敘乃也何を置きゆ三等まる、許曾を置きさて別まる変格を設きこ。

今戊申ゆあゞつらへるにハ、ゆ一波もゆ二敘乃也可ゆ三許曾と定め
て、徒と何とを刪去て変格をたてゝ〳〵こきまて、そのかりもきい一つま
ゆどもそのあゞつらひハかのづゝうまゝをちるべしまゝ北邊
翁の脚結抄まハ、五属十九系六倫十二身八隊まゝ〳〵わうちて、言辞の
品格をあゞつらへるまちゝ〳〵いへどもこきまゝいまゞ九品九格
のくゝきにハれよゞざるゝ。師說まゆかりゝ、いまハその
むきとあるをとりて此書の巻首まをのそるのゝ。

語学新書凡例

凡テ語学トハ言語文字ノ品格ヲ学ビ知ルヲイフナリ。然ルニ文字ハ言語ニ従フモノナレバ。先語法ヲ弁ヘ知ルヲ要トスルナリ。言語ニ品格アルハ。譬ヘバ猶人倫ニ王公将相卿大夫士庶人ノ品別アルカ如シ。鎔ヲツカセタルヲ士ト知リ。鋤ヲモチタルヲ農ト知ルハ。人品ヲ定ムルモノナリ。言語文字ヲバ。熟語熟字ニヨリテ。其品ヲ定ムベシ。文学ニコヽロザス人此法ヲ知ラザルトキハ。必ズ其讀書作文詠歌ナドノ間ニ於テイミジキヒガコトイデキタルモノナリ。スベテ助辞法假字格ヲアヤマル類モ此法ヲ学バザルガ故ノ弊ナリ。鉛槧ノ士トシテ知ラズハアルベカラズ。

○凡テ言語ノ品格九品九格ニ分ル。人倫ノ品格モ能ク推ストキハ。必ズ九品九格ナルベシトナン。九ハ數ノ極ミナレバナリ。

○凡テ九品トハ。第一実体言。オ二虚体言。オ三代名言。オ四連体言。オ五活用言。オ六形容言。オ七接續言。オ八指示言。オ九感動言ナリ。九格トハ。オ一能主格。オ二所生格。オ三所與格。オ四所役格。オ五所奪格。オ六呼名格。オ七現在格。オ八過去格。オ九未来格ナリ。

○オ一実体言トハ。國都山川霜雪人畜ナドノ如ク実物アル体言ヲ云ナリ。其中ニ白さ長さナドイフ辞ハ其分量ヲイフ体言ニテ。是スナハチ実体言ノ類ナリ。又コレニ統称各称ノ二等アリ。譬ヘバ山人ノ類ハ各称ナルガ如シ。統称富士山人まろノ類ハ

○分二虚体言トハ、深き浅き長き短き白き黒き多き寡きマタ有る無きナドノ如ク、実物ナキ体言ヲイフ、其中ニ譬ヘバ白き雪トイヘバ副上トナリ、雪白ヒトイヘバ副下トナリ、又助辞ナドヲツケテイフトキハ比較トイヒテ、クラベ辞ニナルナリ、其比較ノ中ニモ又三ツノ差別アリテ、白きハ雪ヨリ白きぞ雪ある白きこそ雪ヨ、又雪ハ白ヒ雪ぞ白き雪こそ白々ヒナドヤウニイヘバ称階トナル、ホムル意アルクラベ辞ナリ、又雪よりも白ヒナドヤウニイヘバ比階トナル、此ト彼トクラベイフ辞ナリ、又いと白ヒいらば白ヒ最も白ヒ極て白ヒナドヤウニイヘバ最階トナルナリ、

○分三代名言トハ、自ラヲサシテ吾トイヒ、他ヲサシテ汝トイヒ、又彼トイフ類、或ハ汝ガ妻我ガ子ノ此雪其白きこそそれまたいくさなナドノ類、ミナ事物ニ代ヘテイフ辞ニシテ、スベテ六等ニワカレタリ、

○分四連体言トハ、降る雪照る月行く人鳴く虫ナドノ如ク、用言ヨリ体言ニ續ク辞ナリ、コレニ現在過去未来ノ三等アリ、

○分五活用言トハ、行くゆきゆけゆくゆん鳴くなきなけなくんナドヽ活ラク辞ナリ、此中ニ譬ヘバ令虫鳴ノ意ニ虫をなくトイヘバ動他トナリ、虫ガ人ヲなくトイヘバ被動トナリ、ダバ虫ガなくトイヘバ自動トナルナリ、此三等ニマタ各現在過去未来アルコトナリ、又活用言ニ九法トイフコトアリ、スベテ用言ノ活ラクニ九法アリテ、萬事萬物ノ活用ミナコレニ從フコトナリ、譬ヘバ行くゆきばゆくとゝ

ゆく発しゆけゆくんゆくなりゆくぞ又ハ降るふればふれどもふらばしふるとふらんふるらふりふりなりふらばナドノ如シ、ともとゝ

ハ、既然未然ノ差別アレド、九法ニテハ一法ニ属スルナリ、

○分六形容言トハ、雪ガ白くふる虫ガ必しく鳴くナドイフトキノ白く必しくノ如ク、スベテ用言ノ活ラクサマヲアラカジメ形容スル辞ナリ、シクく泣くキヤラく笑ふナドイフ辞コレニ同ジ、此ニ十八等アリ、

○分七接續言トハ、譬ヘバ汝ガ顔色ハ甚ダ白ヒト切レタル語ヲ直ニ下文ニ接ケテ、然きどもと雪ふくらぶればいさゝか紅なり、ナドイフトキノ然きどもノ類是ナリ、コレニスベテナニ等アリ、

○分八指示言トハ、雪の中雪の上ナドイフガ如ク、上下内外遠近前後ナドヲ指シシメス辞ナリ、

○分九感動言トハ、あゝうゝこノあなあしあノなノ如ク、スベテ喜怒哀樂ニツケテ心意ニ感動シテ發スル声ナリ、俗語ニテイヘバアヽアラヤアヤレオヤエヽウヽ又ハシイシツ或ハ笑フ声泣ク声ノ類、スベテ十七等アリ、

○分一能主格トハ、カヽリニトル助辞なれそのやうこそナドノ定格ナリコレニ各其結辞アリ、コノ結辞ヲモテヒガメナドスルヲ、助辞ヲ誤マルトハイフナリ、能主ハ猶君ノゴトク、結辞ハ猶民ノコトシ、

○分二所主格トハ、体言ト体言トノ間ニアルのガナド云助辞ノ格ナリ、

○分三所與格トハ、ヲとへナド云助辞ノ格ナリ、

○第四所役格ト八、をト云助辞ノ格ナリ。
○第五所奪格ト八、より〳〵ゆゑナド云助辞ノ格ナリ。所格ハ猶臣ノ如シ。
○第六呼召格ト八、よやもよいでナド云助辞ノ格ナリ。是ハ客位ノ助辞ナリ。以上六ツハ体言ノ助辞格ナリ。
○第七現在格ト八、めり［illegible］らんべき［illegible］らしナドヽ現在用言ヲ受ル助辞格ナリ。
○第八過去格ト八、てゝりゝんつちつゝきゐばぬちゐん等ニテ、全過用言ヲ受ケ、バどゝゝナドニテ未過用言ヲ受ル助辞格ナリ。
○第九未来格ト八、むでどぬんまばゐんナドニテ未来用言ヲ受ル助辞格ナリ。以上三ツハ用言ノ助辞ナリ。
○凡テ本書ヲ讀ム心得、タヽく解シ難キトコロアリトモ、ソレハソレニシテ、先一過讀ミ畢ルコトヲ要トスベシ、一過讀ミ畢ルトキハ、オノヅカラ其義ニ通ズルモノナリ。譬ヘバ実体言ノ條統称実体言ノウチニ、一名統称日、類、二名統称書、類、多名統称光、類トアルガ如キ、日ト云モ書ト云モ光ト云モ、コレミナ実体言ノ中ニテモ統称ニ属セル辞ナリト知ラバ、一名二名多名等ノ義ハ捨置テ讀ムベキナリ。一名二名ナドイフハ、猶一字名二字名ト云ホドノコトナリ。マタ日、書、光等ニ准ラヘテ、スベテ実物アル体言山川草木萬物ノ名辞ハミナ統称実体言ナルコトヲ知ルベシ。本書モト凡例ナシ、今童学ノタメニコレヲ書キ加フルモノゾ。

九亀藩　橘山地茂樹

語學新書目録

上巻九品

實體言第一　分爲二芽
虚體言第二　分爲三芽
代名言第三　分爲六芽
連體言第四　分爲三芽
活用言第五　分爲三芽　又有九法
形容言第六　分爲十八芽
接續言第七　分爲十二芽
指示言第八　分爲四芽
感動言第九　分爲十七芽

下巻九格

能主格第一　分爲三芽　併結辞
所生格第二
所與格第三
所役格第四

呼召格第六
聆奪格第五
以上體言助辭六格
過去格第八 分爲二等
現在格第七
未來格第九
以上用言助辭三格

語學新書上卷

中橋鶴峯先生著

門人尾張斉藤春昌校

○實體言才一 実体云ハをべて一切の物の名辞にして漢文にゆる実字なり。こゝに統称各称の二等あり。統称実体云ハ是ハ多数の総称なれ共中にまたくさぐれ差別あり。

一名統称 日類 記上あをやまを ひぐかくらバ ぬぐたまれよいいでなむ。

二名統称 書類 記中うきびやま ひるハくりとあ ゆのき 祝バうぐぶうむと ぞこのそをやがら。

多名統称 光類 古春 そるれ日乃 ひうを まあるわきをれど かしられゆき とふるぞるびしき。

一義統称 月類 古秋 つきを ミバちぐ 月ぐよいあらぬぐ。

二義統称 月夜類 古秋 つき数 よハ来ぬ くまるか たくり わ名もふるゆ むらびつゝも 祝む。

多義統称 月人男類 万十 天海月 船うを うつゝうぢうきてこぐ乙ゆ。 月人壮子

第一統称　獣類[ケモノ]古ゝくを里らかせる[まぶをのく]くまにそえのんなちして。式祝詞山に住ものハ[毛能和物][毛能荒物]

第二統称　駒類[コマ]古ゑ。おてといそぶ祐てもゆか那まさ志ひてゆく[ちる]れあをれまへ乃ミなそし。こハ獣の中まての統称く。

第三統称　黒駒類[クロコマ]雄畧紀ぬばたまのかひの[駈盧古磨]くらきせバいのち志なまし。かひのくろこま。こハ駒の中まてれ統称なり。[布]

都麻[阿迦胡麻][青駒][あをげ]などこゝに同じ。こ些ますこ名をつくてんゆゑづきそるすみあぐいへそ。各称にまるなり。

轉用統称　恨類[ウラミ]古序そハあをか川の流にみる[うらみ]あきうらばこハめ活用言よりうつり来るうとばく。

茂類[シゲサ]古ゑ。我恋ハゝ山かくれの草ぞしげき也。[しげさ]おそさまどおもる人のなきこハ虚体言より轉り来する詞く。

浅類[アサキ]添茎[あさき]みや人ハおりてつ我ハおりそれでふうきことひぢをこハ形容言より轉でてきまする詞く。

小称統称　小萩類[コハギ]古ゑこやぎ野のおちられ[こさ]紀をなめみ風をまれでと君を我まて。小ハおもちそ之。[小萱][小栄]等も同じ。

三声統称　上声類[アガルコエ][樋]とりふ声れめし。　去声類[サガルコエ][火]とりふ声のめし。

平声類[タヒラコエ][日]とりふ声れめし。この三声のことを印度までも西洋ふてる男声女声中声とりふく。仙覚が万葉抄に天をおま

と呼ぶハ男声あめとよぶハ女声とりふ説見えたり。こハ悉談家の説によりまるものときこゆ。漢ニハこの三声に入声を加へて四声といふなり。清の毛奇齢が韻学指要に至魏時李登始取其声之同者而分聚之名曰声類然而猶無四声也及齊中書即周顒著四声切韻而梁沈約傚之因之有四声類譜之作夫然後就一類之中而又分四等といへる是なり。その三声を四声としたるゆゑハ漢人の声ハ長と短と二つありて其長短に各三つの差別あるを長声の方のみを三つにわかて短声をハ一つに渾じて入声とせるなりてもしかてゆきバ実ハ三声なりまさて是ハ万国の声ふも此三つの差別あることをさとりまでぐ万国の三声皇国に同じとりふにハあらぬことおもひまがへそ。

一言統称　女類[メノ]記上吾ハもよ[め]にしあれバ汝をきて夫ハなし。汝をきてつまハなし。

二言統称　少女類[ヲトメノ]記中[袁登賣]にめぐなあハむく。わがさけるとめ。又[ひめ][くりしめ][さかしめ]子どもこのめぐひとそ愛し。

多言統称　少女等類[ヲトメラノ]万一たごのうらにふなのりすらん[をとめら]がたまものすそにしほみつらんか。土左日記[うぢとりら]の類同じ。又記中おもゆく[袁登賣杼母]　續紀卅頃者[王等][臣等]乃中尓無礼逆在流人止母在而。万廿若草之都麻母[古騰母]毛と也。

又そのら　いくらあどもこの多云統称のあどひあ那爲し。
漢語学徒　先輩　兒曹の部もあどらへつでし。

配合統称　日月類　延喜竟宴日月のめく星のやどをハうハあとも。かあど
こそれやうあ色ども春の日秋の月あどやうは中間はの
えどあどとそへていたら〳〵辞ハ虚仆云の格はて配合統称はあ
らば漢語はても日月山川酒食農工商賈あどハ配合統称はて。
北辰　遠方　餘羊　木鐸　聖人　賢人あどハ虚仆云の格にと志ら侯し。

各称実体云　ハ国郡山川神人等の名ハもとよりはて宮殿楼閣器財禽獸等
はてもすべて統称の中はて又こゝにとり分てよび名云はあ。

国都各称　吾妻類　古覇旅詞あづまのうへとはそるひとをもとりあふこを
いざ知ひていきたを三河国ハ桙といひ水ゆゑ俗よいゑ色
ひとあふよ。　論語齊　衛　魯　儀　史記西南夷傳或聞　卬西可二千里有
身毒国の部。
奈良京類　古雅ち川をまはうづるこちに　あらけ京にやどれりを
る時よりめるあらのみやこもう化名あり名。
周紀而周復都豐鎬　貨殖傳然邯鄲亦漳河之間一都會也。

山川各称　四極山類　古大欲　志そろ山うち出て見ハかさゆひの浦こぎゐ
くらぬ〳〵しをぶ。　封禪書禪太山下趾東北肅然山
隅田川類　古覇旅詞むさし社ほと志もつふさのまとのまうに河
る　もみぢはのわとりよいとりて。
河渠書天子乃使汲仁郭昌発卒數万人塞瓠子決。

神廟各称　賀茂社類　古　ちハやぬる　かをものやしろの姫こ松某代ふとも色
ハうわらじ。　封禪書高祖初起禱豐枌榆社

寺觀各称　西大寺類　古麦　西大寺ハ西大寺のやみきをよめ部。

神仙各称　進男命類　古序　ひさうとされあめ〳〵てハ下照姫よそ〳〵ぬりぬ〳〵
かきれ他〳〵てハもされをの命よりそかこりを。
封禪書十一月辛巳朔旦冬至昧爽天子始郊拜太一漢は太一とい
ふハ吾天之御中主神はあらりてもおハち各称なり。

人物各称　人麻呂類　古序　ひとまろ　人ハ人よろ　がひにたひとかくまんあり〳〵る。
高祖紀呂公曰臣好相人相人多矣無如季相高祖姓ハ劉名ハ季な
り。

器財各称　万葉集類　古雅詞貞觀政略　まんえうしう　ハいのぐう作まるぞ
とくハせ法ひを色バよみてなり〳〵る。　孔子系春秋
草薙劔類　神代紀一書曰本名天叢雲劔云至日本武皇子改名曰草
薙劔矣。　蘓秦傳蒙谿墨陽合賺鄧師宛馮龍淵太阿

枯野類 記下 からぬをあれはやき 志ぐやき みれば紅の各称ハあるべし

禽獸各称 命婦松毛登類 松草子異本うへなさふらふ法ねこハかうぶりぬとりて命婦おりゝていとなりゝれば

項羽紀駿馬名 雖常騎之 この駿をぞらへたるべし 又金太郎いしし源ゝらぶゝどやうは各称ハ似たる統称ありゝ混てそよ

小称各称 小黒崎類 古本紀をくろぎ紀みつのこ語の人あゝバ都のそとハいざとゝいとゝを をゝつ世みを埋なども同じ

三声各称 上声類 記上 次成神 字比地迩上 去声類 記上 次妹須比智迩去神

平声類 記ハ平声を註せざゝハ平声ハ常の声なれバなるべし

複称各称 忠岑等類 古序 ゆゑ〻〻 つゝゆゑら 史何等 驃騎等 繇王居股等 駒衍淳于髡接予愼到環淵之徒

配合各称 大汝少彦名類 万三 堯舜禹論語

○虚体云第二 虚体云ハ実体云ハ附属して其深浅軽重ハ形容をる辞ハて漢の虚字ゝ此ハ副上副下比較の三等あり

副上虚体云 こハきあき或ハめるる等の韻をふゝて体云の上ハ附属をる辞ゝ漢語ハてゝ体云の上ハ冠らぬ有無多寡易等ハ此格ゝ

幾韻副上 深心類 古 ゑ〻ゑ〻ゑけ ゑゝもきこえぬたく山乃ふゝき ゑを人ハたゝなむ 泰伯如臨深淵如履薄冰 貨殖傳揄長袂躡利屣

准幾副上 深淵類 和名土佐国香美郡深淵布加不知 ゑらふゝきふちの義

倍幾副上 可見君類 古離別胡ゑゝ見べき君とゝ 枕ゑ 周勃発買工官尚方甲楯五百被可以葬者

奈幾副上 無水空類 古素さゝ 浪ぞゑちゝる 酷吏傳無勢者貴戚必侵辱

志幾副上 新年類 古大祓 てゝの紀をへめ 八俣美目盼兮

志幾略幾 空煙類 古排諧ぬじれ祓のゝぬゝひゝゝ

疑幾副上 不可寄川類 書紀 とゝのゝ

又伺花比世ゝハまゝも花ゝちゝぐゝんゝとぞかゝ しきこハ波のゝゝをを結べるゝて副上比格ゝあゝゝ

不奴副上　不老秋類　古 露ながら折てかざゝむ菊の花老いせぬ秋のひさしかるべく。

邪留副上　不咲花類　古 春の色のいたりいたらぬ里ハあらじさけるさかざる花の見ゆらむ。　始皇紀 度不滅者久之。

奈留副上　常磐松類　古 ときはなる松のみどりも春くれバ今ひとしほの色まさりけり。　上林賦 捷垂條踔稀間

すべて副上虚体云ハきたるべき詞もさきざる不ぬざるなる等ハ本二能格ぞの也から其結びとなる辞也。但結びとなる時ハかならず体云をそなへてきたる格也。ゆゑに下に体云ありてもそれにハかゝはらずしてきたる事あるなり。ぬさくら花とある副上虚体云おしやの結びとなる時ハ同春下 あとなからバさくらばやハうつらぬさくらぞなどとなりてきたるがごとし。かく結びとなりてきたるを比較虚体云といふ也。此切るゝと切ざるとの別ハ先達の説にも見えざれども云語の品格によらざる論ゆゑとりわかめなくてハかなはざるなり。

轉用副上　殿造類　古 序 此殿ハうべもとみけりさき草の三つばよつばに殿づくりせり。殿ハもと体云なれども、かくいへバ虚体となる。

生格副上　後之形見類　古 表 のちまでむ後のかたみに。所生格の例をつぎてかくいふハ虚体也。　梁孝王 欲以孝王為後嗣

貝數副上　一盛類　古 我名それのさくハ一さかりこきまぜどもかへまぐぞ…ハかゝる。　孫呉傳 萬弩倶發

副下虚体云　是ハし或ハ其れ韻をふまて体云の下に附属する辞にてかく称す。活用云を形容する格也。形容云の條と見合すべし。

志韻副下　川風寒類　古 羈旅 都いでゝきのふといへどもいづみ川かハ風さむし衣かせ山。　倉公傳 有間而身寒　河渠書 邑收多

奈利副下　風速也類　古 衣ちりかへり空にのぼりてふるらくハあなたの山の風そやはやみなり。　琵琶行 門前冷落鞍馬稀

すべて副下虚体云の其事等ハ本一能格はもの結びとなる辞也。但結びとなる時ハ、まへ(?)ありし絶て道もあらず、まがらの棒もつくるなりなどやうにおほくハはしをそさみて副下虚体云の格をそなへきたる。

貝數副下　心一類　古 恋 いせの海に住るあまれうきまにやちくろひとつをさぶめりける。　項羽紀 如是者三

比較虚体云　こハ体云の助辞を或ハ履し或ハ戴きするさいふ辭ハ是を比較する辞也。比較虚体云をそへてつる格を比較する辞也。此に稱階比階最階の三階あり。すべて能格三等の結びとなる辞ハとるとこれに属するとしるべし。

稱階比較　稱階とハそえてそのくらぶる義也。此中能格の助辞を戴く辞ハまる其能格の結びとなる格也。能格とハ波毛叙乃也加許曽之。

𛁈波祢階　白波類（しらなみなく）風俗かひが袖に之呂支波事なや。すべて〳〵そのやう
古き歌のみをよりよをふむ虚侘なきまゝなるべし。
陽貨不曰堅乎磨而不磷不曰白乎涅而不緇。

戴波祢階　波無類（はなしの）古歌あまの繩たれつれなくみえし別よりあかつきばかりうきものはなし。

戴毛祢階　毛無類（もなしの）古冬ぐ家宮ハゆきふりしきてみちもなしふみわけてとふ人しなければぞ。

戴叙祢階　叙悲類（ぞかなしき）古秋名うつきまみれからハきぎくもどもぞむれどあかれゆくへをしらぬぞかなしき

戴乃祢階　乃無類（のなき）古歌ひとりしてものをおもへバ秋の田のいなそのぞよはなきいふひとのなき

戴也祢階　也迅類（やとき）古春なくやとにそなやなそきぞきてもむ常だなまなかぞまあるかな。

戴加祢階　加無類（かなき）古恋人もるなかそかやな恋まきまどかもに出て恋しもいらんかんハうの恋かりかやなハあやなきなり。

許曽祢階　許曽悲類（こそかなしき）古秋ぼこれバちぐまめのこそ物しれまわが身ひとつの秋よハあらねど。

又あの中ま古今ならそきみがうぎてありなき　後撰もれぞよるべもなきなぢそし　新後撰われとよこそふくとむなしあぐやう

まことをいるじきてぞを結び、ぶを以なぐ紀チガらぞこ共を結ぶさぐひありぞ下略能主格の條とまじへ考ふ可し。
およこの祢階の如くなれなどのなれハくわれの約かりてかれとなりたるがまた轉じてなれとハなまるえ。されバ恋の之の
ゐなれとハ呉なることを志るべし。やさ添ふらしなるらしと云ふうらし上とうらしなどのうらしハくあるらしの約まりたるえ。
およさ古恋わが伊ふ人をあとの志げきん　新古文いせ物語須の
あれといづ迄たうきん　形動ちなら恋ちらバなしきん　催る
禾法者はなみよきん　万葉歌しきん　さがしきん　ちりきん　およさ
とやきんなどのきんハ、こそからんの約まり轉じたるえ。
万ハ、こひしきぞ形兄ふせんと、十一、恋んま厚くしときまくに。
十九、ふにまさりてかしこきめやも皇らの生かならゝ又武
かは堅き　霧き　さひきき　つゆきさぞりゆきハ本の
きまそりさうことま知べし。　郷黨孤貉之厚以居。

比階比較　比階とハ此を彼とくらべ、彼を此とくらぶる義にてそのほよ
　やとおまさハかりハなどの合助辞をそへていふ例え。

自波比階　自波可佳類（よりはよかるべく）古雑山ざとハ物のさびしきことこそあれ世のう紀よりハ佳よかりなり。かりハくあり之、くあ反り。

自毛比階　自毛悲類（よりもかなしき）古哀傷ごゐをでにきりであるゝ毎よりもよきにま孫む君ぞかなしき

衛灵公民之於仁也甚於水火　李斯傳故詔莫大於卑賤而悲莫甚於死困

最階比較

最階とハ、それよりもことにもてなすの義。よりもよりいっそ、などを添ていふ例。

自殊最階　ヨリスグレタカイ

自殊悲類　古意、古きを常とし、つくがつくに、おもてよりなまづぞ　かなり紀

甚最階　イトカイ

甚深類　古雜詞、おそれ山乃ぬりとかりなるバ、ゆよいとふるまでいとぐ〻

最甚最階　イトガ

最甚深類　古雜、とゝをへてもミあゝさとをいでゝいるバいとぐ〻ふるくさ世とやみアおひ、ものいひうけゝ

深孝系、實夫后哭極哀　呂后紀、計所以安社稷甚深　晉系、王遇晉公子至厚　趙系、婦人異甚　留侯系、誰賢甚者

○代名云才三

代名云ハ、統称、各称等の名辞なゝへ用ある辞ゝおれる人名代名云ハ、人名ゐ代用ふる辞なり、すべこれよ才一人名才二人名才三人名、不定人名、復称人名、此五等あり。

才一人名

吾類　古表ちる、ものゝ、ゝくあ〻とあゝ物ゝ、ゝバ　ゐ稜、ものとらゐ

俗語ようつぜバ、ゐれハ、ワタクシセッシャまろハ、フシオレ、みづ

ゝハテマへ、自身かのきそれがしハワタクシセッシャなり。

ゝさ　万六天皇朕　岸頭乃御手以なでのめぐ、天子朕と称し、諸侯寡人と称し、男子臣と称し、女子妾と称もるなどひあり。

合余　印映　吾我　ゐられ字ミる才一人名ゝ、姉ハ婦人自称也、と郭璞が注ゐえゝり。　ゝさ吾と我との差別ハ、平津侯傳始吾貧時昆弟不我衣食賓客不我内門今吾相齊諸君迎我或千里ときゝて吾ハ自身ひとりのうと、我ハ我族なゝおでゝかゝるうをさとるなり。

才二人名

汝類　古雜ちハやぶる宇治のゝ　ゐれをゝそ、ちハゝれとハ思め年のへぬゐバ　ゐれ　きみ　かゝへ　ゐ　みづゝ　そこ　な

どゝな同じきみハアナタソナタおまへハアナタサマゴゼン御

ゝづゝゝハゴジンそこぬハソコモトコナタオテマへゴジ

ンなり。

若　而　爾　乃　汝　ゐられ字ミる才二人名ゝ、ゝさ　西ハ乃ゝ同じ。女ハ汝

○語學新書上巻代名云

又同じ。さ〜子足下のたぐひも同じ。
袁盎傳。司馬夜引袁盎起曰。君可以去矣。吳王期且日斬君。盎弗信曰。
公何爲者。司馬曰。臣故爲從史。盜君侍兒者。盎乃驚謝曰。公幸有親。吾
不足以累公。司馬曰。君身去臣亦且亾。辯吾親君何患。こゝも君ハ卿ナリ
タ公ハソコモトゝ。張儀傳。始吾從若飲。我不盜。而璧若笞我。若善
守汝國。我顧且盜而城。こゝもハ若汝。而を書分けう。孔子家子
見夫子乎。陽貨。來予與爾言。始皇紀。閻樂前即二世數曰。足下驕
恣誅殺無道。天下共畔。足下足下。其自爲計。この註又羣臣庶相與言
曰。殿下閣下。足下。侍者。執事。皆謙類といへり。是らをて才二人名を
さとゝなべし。

才三人名

彼類。古序。あうのまど。こゝを彼ハ彼ハ
ふなむわる。ふるくいうれとうふ辞をこれといひうのとい
ふ辞をこのとゝへり。そのゝえある歟。
憲問。彼哉彼哉。項羽紀。縱彼不言。籍獨不愧於心乎。
彼家類。古哀傷詞。孫子。敏於行而訥於言。ふるる時ふようみて。か
の家の妻にたゝつ〜事。うけうるる人。かのむ道。かの方
うのかるんよ。うのむう。かこせるうきる。ぬどす。是らを古今
の辞まてあひかなじ。
先進。是故惡夫佞者。魏武傳。杯酒責望陷彼兩賢
上のわれ。汝ハ自他のゝぢめあるまでまて。男女中ハこと〜ゝね

どもあさらうお辞を。この才三人名ハうれ男。うれ女。うれ子。など
やうまいそざれば。男女中わうちがゝ。故又是らの辞あるゝ。

不定人名

人類。古俳諧。雲ちまぬあさまれ山乃あさまゝや人のゝをてこ
そやまめ。この人のゝハワレガゝとゝなる同じく自他ゝ渉
る辞ゝれば。不定とゝ。俗語。
陳平。家貧。人固有好美如陳平。而長貧賤者乎。

復称人名

吾自類。大和物語。たのれひとりまゝ〜ん。こハ人名代名云を重ね
ていふまり。俗語。ワレガゴランニなどゝ。
憲問。天子自道也。樗甘傳。去我身自請之而不肯。汝焉能行之。

物名代名言

是ハ物名をさざひる代辞ゝ。これまゝ配合。獨立れ二等あり。

配合物名

我君類。古契。我君ハ子ゝ。ゝまハ子ゝ。ゝまでゝ。汝身。吾大ゝ。おどゝ。
公治長。吾黨之小子。泰伯。啓予足。啓予手。雍也。再鄰里鄉黨。田
叔傳。王非君主邪。袁盎傳。吾與而兄善。

獨立物名

乃類。古序。まんえうにいゝぬ。ゝうきゝ。みづゝ。のをもゝ
ら。ゝ。好忠集。人妻と。ゝの。とふゝ。ゝ。ゝまハ
ゝれゝ。池ハ。ゝれまれ。これられ。ゝ。ゝ上の。ゝつま
ゝどれ代辞とゝりて。さてその物をハ離れて獨立ゝたり。万十

八、志なざうるあ一の君のと生おれのおども、獨立詞名の一つれ
格なれでし、　まさ弟古橘花あが袖ふまーおひひぞと妻やむう
しの序まとたでやこい古意月やあらぬ妻やむうーれ妻あらぬ
とあるが歌を云てよめるまて、獨立代名云れのおどに本歌の辞
をこ発た里、　まさけのおどをそへてはくされ格まあり、新手、我
うくて君が七代まひぬさうれ、笑しまさーれ図道ぞーらる、生
ハ古離別、お坂の笑しまさーれ詞あらバとある本歌をとりてよ
めるまて、笑ーまさーれの下にのおどをそへてはくさ。
賀類古秋詞、このうるいあるの人のいそくうきれめぞの人まろが
賀類　同雑詞五節れあーさふかむぞーれ亞のかちうを
る沉見てるが沉見てるむうーめうひてよめる。又同雜、ぞれ中ハ
づまうけしてはづ沉見てるむあどまを獨立詞名の格まて、上れのま
同じ、　まさ万三いおとへど志ひる志斐のど志ひどうハ志
斐ノソナメガシヒガタリれさ、十四、せまのが袖もさやまふ
しつハ、せ十ノ君ガ袖モとうふさまて、まをまをがおどふるま
せるる沉るでし、　まさ古意むぼこのるハつまるまどハまん、
人をとふとそまうとうとと思いむ比うとのうハ疑問法のうていさ
いう笑之混ぜでうーぐ、
陽貨、公山費擾以費畔、召子欲往、子路不説曰、未之也已、何必公山氏、
之之也ぞまハ上の之ハ獨立物名まて、上れ以費畔三字の代名云、

下の之ハ未来活用云云、此方れ儒者のひつうざるうとと、
指物代名云　こハ詞をさーてこの何その何おどうふ代辞をいふと、
此指詞　此苍類古序、ふたげよ咲やこの送冬ざるり、いまハ妻べとちく
やこのそ子
其指詞　其名類古排偕ふうその名れ名りうとのをーかーむ志うておど
ふハるれひうとうそ、
雍也、斯人也、而有斯疾也、　汲鄭傳、此両人中廢家貧、學而事父母
能竭其力、事君能致其身、　蒙恬傳、此其兄弟遇誅不亦宜乎、
再説代名言　こハ上のるを弟ーーびうふ代辞ーてこれそれまこやこい
そよそをまう所者同おどの詞、
是再説　是類古意形見ーぢ今ハあうまれこれまくハ志ーー時もうまま
しまの沉、　金葉、あさまーやこハ沉るれさまぞとよ
其再説　其類記上、今其可來時故泣、　古詞名名りぞよりそ妬まて亞沉つ
しまめやこれそれとうつをうんうし、　拾遺、いさやま
ぞ志てふこともあうまるくこやそまるーんいこそ祝られね、
古意そをぞまるなの志ぞうとこに、　同志物名のそよといふ人の
みま、
學而、礼之用、和爲貴、先王之道斯爲美、　微子是魯孔兵與、曰是也

淮陰侯傳此乃信之所以爲陛下禽　呂后紀帝廢位太后幽殺之
八佾樂其可知也

者再說　者類古雜大うさハ月をも発でじこきぞこの法りれバ人のかい
者類となるもの　同序ぬるりのまるかぞへうさこれハうぐこ
とにいひて物よゑとうどもをぬりのかり
學而賜也始可與言詩已矣告諸往而知來者

所再說　所類こハ漢籍よみの辞まれるくありて上代のあるよハ引てあ
所類きこ　孟子梁惠王下姑舍女所學　書微子之民の攸も同じ

同再說　同枝類古秋同じえをもとりて
同枝類じめかりて多　詩谷風及爾同死

疑問代名言　疑問代名言　何ハる物をうとぐひとふへコトバ
よあづうる物あるくさあり

非情疑問　何類古春まてとりふふちらでしとぬる物あるハ阿をちらに
何類ひあきぬし　源桐壺いづれの法ときまる

公治長曰何器也　平原君傳子秦地何如毋子孰吉

有情疑問　誰類古秋あみちゆのあてたれるヒが亟どる隆をまつ虫こて
誰類ちゆらむ　又ふふくハ誰のをこ同秋なふ人うきてぬぎか
ぬ　爰ぞうぬ　同意あひ志ふハ　ぬが名ハぬ〜じ
子罕吾誰欺こ天乎　述而伯夷叔斉何人也　項羽紀客何爲者

すべてこの疑問代名云ふオ二紐格の助辞『ぞやう』等れつくと紀
ハ疑問法とる紐格とムうべし
汎称代名言　こハひとつにうぢらぶ〜てひろくるる代辞なり
然汎称　然類古雜ぬが尾ハみやこれぬつこ志うぞもひよをうぢ山とく
然類ハりぬこ　又さハ志りのつぎまりくる辞こ
如是汎称　如是類古意世中ハかくてそ者れふくれのめにれぬくも志〜
如是類かりくヒ　同序ぢらもかくれでとくなるべし
泡藝傳先生奈何而言若是

皆汎称　皆人類古哀傷ミな人ハ花の衣ふ形りぬあり　こきのあるぬよか
皆人類ヒ紀ぶまきよ　顔淵人皆有兄弟　李將軍傳一軍皆哭

諸汎称　諸人類拾遺あまさみしとよれみそぎれあろく人の君し半物をか
諸人類のハを紀うあ　五宗家諸幸姫常侍病

幾汎称　幾世類古雜ヒれ〜ん〜ん　循吏傳如此幾何頃乎
幾世類へめ〜ん

數汎称　八千度類古哀傷さ紀ぶ〜ぬくいろふちらびうあ〜きハ法るく
八千度類ふのうへうこぬあヒ　述而加我數年

このれう　或　のぬぐひまりあ紀ぬ〜そハこ形ぞぞらへて志る
べくるん

○語學新書上卷代名云

複称代名言ハ代名言六等のわかる。

オ一複称　我等類（ワレラ）古也。後のものくまるゐハ　己れら　が中に時なるて。まさ同序。そきはくらハ　そきはくらハ　の等をうつしあやまれるものなり。　項羽紀　吾屬今爲之虜矣。

オ二複称　汝等類（ナムダラ）万六ほ也。　枕草子　君ざち　神乎欲のさきんざちやと。さハとやを辞るて　公等　なるべし。　源氏宇葉下　宮ざち　駿河歌正乃者良　平原君傳　公等錄〻　日者傳　公之等　偶〻者也。

オ三複称　彼等類（カレラ）源楊姥　うれきんざち　のぬぐひをと。上林賦　若此輩數千百処。

○連体（ツヅキコトバ）云オ四　連体云ハ活用云三世の助辞をふまて。さて実体云に續くをいふ。おのおのこそ現在也去未来の三等なり。

現在（メノマヘノバキコトバ）連体云　こハ現在の用云より実体云に續くを云。そべて四段ふ活く辞のくをつゞめもる及くるをもるつるふるぬるゆる引く等ハ皆此格に。

久（ク）現在　咲花（サクハナ）類　古春　ちく　ハ子結まぐゝまあるまで。ゐれりハ夫をうる。

須（ス）現在　人古（ヒトフル）須里（スサト）類　古意　人ふる　さと　をいとうてうかども。みゝのみやこまるうれ名なり久也。

都（ツ）現在　待人（マツヒト）類　古美　まつ人　もこぬりのゆゑに暮れなきゝる義をうまて

布（フ）現在　誘（サソフ）ま類　古難　ゐびぬまバ　ゐ引ゝう紀美の根を結て　さそふめ　行ゝバ

武（ム）現在　住我（スムワレ）類　古秋　あ紀のみる　紫紀ぬさゝゐむくまバ　もむ　ゑ　さへぞ格。

る（ル）現在　見人（ミルヒト）類　古秋　見る人　ま　みくて義ゆるおく山ろ。をみぢハ　るれふ

久（クル）現在　吹來風（フキクル）類　古秋　かをゝ　ゝ美の山ハとゆゝきど　ふきくる　風ハ

須（スル）現在　令紅葉（サスルモミヂ）類　後撰　ゐ引の山の山ゆまをる山ま。　をみぢ　せさする

都る現在　出月影類　古雑　ぬばたまの夜ふけぬれば久方の月の出でいづる海づらを見よ

布る現在　恋君涙類　古恋　君をおもふる涙のとこよみちぬきば　みをつくしとぞ

武る現在　鳴留花類　古恋　紀とむる花ぬぎらるまば　常もさてハ物うくぞ

由る現在　見白雲類　古春　さくら花咲よ雪うしをゆ　ぬきの山ぬくひより

留く現在　流川類　古恋　くるおとに流る川をくるとゐて　をくまぬみよ神やぬまるむ

高祖紀　願従者十餘人　衛灵公如有所譽者其有所試矣　孔子家語　遇荷蓧丈人　檀弓魯人有周豊也者

右ぬく現在ぬ件云に多現在用云り能格の結辞とする時ハ下の実体云る積くことを多ぞうるぶ切る格え

現在用云のくもつ利ハ才一能格はもの結びと才二能格のやうれ結びと沈うる　くるもるつ利ハ才二能格そのやうのこれむもびとる辞え

格そのやうのこれむもびとる辞え　まさぬるつるるく　といそぶして花さきぬ常るきつりみち紫多

ぐるあどやうにいふ辞ハ才一能格はもを添てゆくこの結辞る

して　りとより連体云をとづれて切る辞なり

過去ぬ件云　こハぬる去用云ハふてせるとこの同じ死きるせりてりへるめる　ぬるるるるげんぬ等の助辞をふえて実体云る積くをりふえ

志ぬ去　結水類　古春　神ひぢてむもびーれのこれぬる沈くるるるるのくらむ

尓志ぬ去　来心類　古離　かりきるきいはもてきみーれの対にーりぬばりるるぬ

豆志ぬ去　降隈道類　古秋　ぬえ多ぬてちるふやとくむりみぢ紫の　ふりかくしてしもとたるぐ

ケル　沙留ぬ去　咲樣花類　古春　みくしぬの山べる　ちるるさくら　雪うとのこそ

世る去　曝布類　古雑　あがるとるくりなる　ちるる布　ぬぬやよをへくたれどかなき

旦る去　立松類　古雑　かくるるくに　ぬをやつくさむる砂の尾上ふる　たてる松

閉る去　匂岳類　古恋　くるさ発に　ゆへる　ぬ　ちりぬくに　あさへ　ゆつる

免る去　霞世類　式子内親王集　はるる　うを免る上　れきーきるる

礼る去　氷涙類　古恋　ちるみうちふ寄ハ来る　ぬ常の　これぬ張　いるやと

奴る過去　住世類　古雑。しら雪はきえむとなびく峯までにもとめば見ぬる世まで待ちまされ。

多る過去　浮為類　古為。なぎさにおぼしもぶめぬる紀弟なる紀たる為ま。為ハもちりけ。同為詞 なきさるもれ葉 に多をさして。

計る過去　従兄男類。古俳諧詞 いとこなりける 男 によそへて人のいひける。

計武過去　契心類　古秋 ちぎりし事むかし ぞ流らきもなげきの年まで一ふびあふをあふうハ。

省体言格　免留下　省体言なり。古春詞。みちとしにまうちなる日 よそなる 時下に 歌 とある庵まを省けり。さらざる系て少なくべし。

多留下　省体言なり。いせ物語いやしき男 なりける 時下 女 とあるべきをはぶきり。

計留下　省体言なり。いせ物語みこの たまひける 時下 詞 とあるべきをはぶきり。

袁盎傳 盗君侍児者　公治長 喜色 慍色　酷吏傳 盗竊 餘肉　孫呉

傳 龐涓果夜至 斫木下　滑稽傳 憍拜 遺贈

右此ぬく過去主体言に承る過去用言ハ才二能格ぞのやうに此語びとなる辞を続る時ハ下の体言に続くことをねぎして。うあらびん切るゝ格なるとへバ古そ春下山なるとえみつゝ 花がある 櫻花 とつゞきたる主体言めしそのむすび辞

とありて同表上を指にのこあいまとぞ見し うめのえまとりふ時ハ下の体言につゞうぐして切るゝがぬし。

又国えみ 縫 を縫はき 着たる 羽 を羽着うとやうまいふハ皆才一能格は止を使て心なくさの結辞ふて主体言まハあらず。

未来主体言語法　こハ未来用言より実体言につゞくをいふなり。志ら洲に西洋の語法ふてハ未来主体言此格なし。そハ彼国の語にてハこの格まきがゆゑなるべし。皇國言ふてハ俗語ふハこの格をいとざるなりぬくへバ 見ん人 ちり飛ん 孫 ちるらん小鳥 などの類俗語まてハ見ル人 チッテ孫 チル小鳥 とやうにいひて見ヤウ人 チルデアラウ後 チルデアラウ小鳥 などくハいはざるがごとし。

武未来　将来世類 人を昔と思ハむ。古為 来む世 をもえやまりまくむめのまへス。つまなよ 思ハむ人 志らまむ時 などとも同じ。

将散小野類　古秋。そぎが花 ちるらむ小野 の云まむぬまでをゆらむさよハぬくとも。

良武未来　高祖紀 殺人者 死 傷人及盗抵罪。

右のぬく未来主体言ふなる未来用言ハ才一能格のはむと才二能格のそのやうと終りてむすぶ辞に志うるにありその詰びとまる時ハうあらびん切りてく上の現在過去の例のぬし。

うくてあの主体言ま能所中の三等あるなさをなとへバ 見る人 見ゆる人 ハ現在の能所中なり 見し人 見られし人 見え

人ハ已去の純所中ゑまう。已ん人。已られん人。已えん人ハ未来の能所中ゑ孩ぶ。

漢語まて。高祖紀願從者ハ現在の能ゑ。

衣象斷足ゑ足ヲ斷レタル者ノ子ぞよむ。奪妻者妻ヲ盜マレタル者とよむ。是孩ハ已去の所ゑ。

高祖紀殺人者ハ未来の能ゑ。

ゑ能所中乃ちい活用云ヒ條まさとゑべし。

以上実体云虚体云代名云体云の四品いゑ体云のゑぐゑ。

この四品ハ体云ヒ助辞はもそのやうこそのみをまりよれ六格ふよりて轉変をゑゑ定格ゑり。

○活用云才五 活用云ハ已の孩を活動セーひる辞ゑ漢ふいをゆる活字ゑられゑ動他被動自動の三等及九法あり。

動他活用云 動他とハゆゑ能活ともいふ。ゑゑハちをれを孩ちらきゑ。これまゑ現在已去未来あり。

現在動他 古序あとへバ已に加ゑるをうゑを見ていさづらゑむを動心類 動ゑゑがめし。

陽貨割雞 魏象魏栢子 韓康子 韓康子 高祖紀詐爲

漢王誣楚 莊傳其象甚知其子而疑鄰人之父

現在動他ハばかりとそのやうとの結びとゑ孩くそつふむるの所役格をゑ志さゑ格ゑ雖ヲ割クといふがめし。 ゑさこの現在

動他の上いうゑゑ過去れ辞ゑ女ヲ見テ心ヲ動カスといふ時見テハゑ孩ハちる去格ゑ孩がめし。

全已動他 動天地類 古序ゑ已ちぞうおうし 已ゑ已ゑぬゑゑ神をゑ行ゑ

衛灵公嘗聞之矣。始皇紀招八州而朝同列。項羽紀楚人憐之至今。 樊鄧傳拔劍切肉食盡之。

全已動他ハきゑちにひをりけせてぬへめれの所役格をふ從ふ格ゑ。又ゑ全已動他の下ハ現在の辞を孩ゑ文例ゑて志ゑ已し。

未已動他 待春類ゑ志ゑゆゑ。 高祖紀太公往視則見蛟龍於其上。

未已とハ、現在ならつる已去の義こ。未已動他ハ、古その活びとならけせてねへめれの所役格をはなさゞる格之。

未来動他

將留人類　古徘諧、出てゆかむ人をとゞめむよしなきなりのうさにそなひぬるな。

季氏將伐顓臾。高祖紀、項伯欲活張良。

未来動他ハ、うきたなそまらけせてねへめれきなちにひそも等の所役格をはなさゞる格之。

被動活用言

被動とハ、おうさ所活ともいふ。ちなハちものゝあらる活き之。小説語ニ、喫他走了などいふ是之。此なうさ現在已去未来なり。

現在被動

所責類　古歌、冬ハ雪おぞせめらる　是ハ現在を体云の格之。　同誹諧、ゆとりらる　我身ハ

陽貨年四十而見悪焉其終也已。公冶長屢憎於人。淮陰侯傳、乃為兒女子所詐。外戚家、為人所略賣。五宗家、詣中尉府簿。酷吏傳、跪伏使買臣等前。魯鄒傳、故女無美悪入宮見妬士無賢不肖入朝見嫉。

被動ハ、こな所與格ヲはなさゞる格なり。

全過被動

被棚引類　古歌、ちるハうきみになびかれ　同恋、君をきくなと古風ハ、みれをゆえとりか、万元かくゆきをバ人がむそバ是になり。まさゆかバ人がゆくまえ　同七、おのハぬ人のなおそらゆなしど。

楚家、旦王欺於張儀。おうさ袁盎傳、調為隴西都尉。呂后紀、徵至長安。なども被動の格なり。

未已被動

見恨類　古徘諧、あゝら此人がうらみらるれバ、

田儋傳、蝮螫手則斬手、螫足則斬足。

未来被動

將被忘類　古雑、忘られむ時しのべとぞ思ひ子為ゆくへをしらぬ跡をとぶむるもられむはといふハ連体云の例なれど、しそハすべてはなぞらへて所与格ヲにはなさゞる被動詞なることをしるべし。ゆくへバ人がえられんといえんがめし。

淮陰侯傳上怒曰、豎子之通曰、嗟乎寃哉、烹也。ニラレン［ト］とよみあり。

自動活用言

自動とハ、おうさ中活ともいふ。能所をそなへざるもてなる之。此活辞の〳〵とかわし。これはおうさ現在已去未来あり。

現在自動

成類　古恋、かろかなる源ぞ君が玉ハ形も我ハ君あへぞなぎらをなれバ。　自動もすべて所与格ヲにはなさゞる格之。

越家、到門居甚貧。項羽紀、雖吳中子弟皆已憚籍。淮陰侯傳、居常鞅鞅羞與絳灌等列。楚家、以說衆、衆乃喜。

現在自動ハ、くそつぬふむゆるうるまるつるぬるふるむるゆるるいれかへるなどの韻をふむそうらぬ辞之。

全已自動

居類　古徘諧、人がかくむつきれなれよハ思ひかきてむほそも火がもやけをる　同序きのふハいかえおこりて時をそうし

あひよりてうるはしくかたらひ　うとくあひて　さらさを同格に。
有系車絃於木而止。五帝紀書缺有間矣。陳陟系尉劍挺
全き自動ハ、き、ち、ひ、み、い、り、ぬ及受獲等のけセてねへめえ乙
ゑの韻の活辞に。

未ゑ自動

ちさがへり。行類拾遺ちがこけとはゑゑ。こそ人ハゆけ　あぐ附のゑもこそバ
行類ゑ、紀ゑ遠ゑニモコソ人ハユケのさゐて。所々格ゐに
未過自動ハこそけ活辞の所々格ゐ。ちさがへる。こその活辞
とハけせてねへめ乙をいゐ。
まこと万葉ゑ一の格ケ辞あり。二。ゐまづこよ入日さしめれ
五。ちぐみうま　ゑ一ゆりつれ　十九霞霧の　ゑまゐふゐれ　十七。
大雪ケみぐれてきこれ　十八。こ
が乎ゐりど　まうしまへれ　五。をきさかひぷつゐハせれまうり
いませ。記上よぐひう　ゐてかよハせ　以上ミお出教の詞に。短
欲ゐハ万三系さうりいまそ紀ゐをらびみうま　山めくりつれ
たうーひゐゐーとよめり。是ゐまこと未ゑ自動ゐ属ケ活辞に。

未来自動

如著類　雍也天厭之天厭之
まこと万葉ゐんを結びてめといふことゐゐし。二。たがあひふゐ
らめ　三。ゐ乙あひさこめ　ひ。なくもいうぷ　ゐこめ　七。いづち

ゆゐめと。十三。ゐひめこめを。十四。つこえげめうも。十五。
こくらめ　うをよすーこけざるらめ　十六。ゐよせんぷゑを　ゑそら
めや　一ゑいゐさゐぷ　ゐゐひ　かゐひ　きめうも。四。いうをうり　きめう。四。いうをうり　ゐりひ
きめうも。けゐ例書紀ゑ乙後のゐみ。ゐ。さそらめハ現在捨きめ
ハ過去格ゐれども。ついでよこよハゐる。せうのそ。
もべて未来活用云ハ。いけさこ。ゐ。いうをとい
ゑゑ未来用云ハ下ゑ乙ゑゐ助辞ゐれバかゐ〳〵語をゐさぬこゐ
とくバきうんぜうんぞ。ゐ。ゐ。ゐ

ねい非情　降類　古冬、梅雪そもともそえびひさうされ、あぬぎるをれふべて
ぬ歩て　バ、李斯傳、秋霜降者草花落

配合活用言　すべて用ゐと用ゐとあひ合はるる辞をこ、古ゆりゆく後ありゆ
ゆ　バ、古さりあへず同ゆ　をきあへず同ゆ　ゆるはゆきゆらで拾そ
むきりぬらん　ゆく古ゆる同ゆとそる、方なくゆ同志のぞゆ
ぬ　ゆうす同をさする　古ゆるる同ゆ　ゆる円ちらゆ　うつゆ　ゆぞゆる

あゆもくゆ配合活用の例し　但と発ひと発ハ色のまにくの
数ハ色々辞の数ありて配合ハあゆざるこ

現在配合　行過類　古秋をくゆへゆうしとそつゆぞゆきゆる　ゆうす同友思
行　ひ生り　こ紀えれ山の財色こハ連体ゆの配合あり

全色配合　落積類　古奈欲つくは紅の雲のゆみち塞おちつりゆ　ゆるゆ赤ゆ
ぬ　ゆべてかゆ　ゆ、同長ゆそんくと　ゆゆきはゆり

未過配合　明立類　古亥河々たて　バ　燈のをうそへ鳴くゆし　ゆう同亥こひ
ぬ　ぬとまるゆぎゆ　ゆしハ使令のさこ

未来配合　帰来類　古離別立わゆんいゆぞれ山の雲にゆゆるゆ月とゆきこむ
ゆ　ゆうバそうへうりこむ

配合の例漢語ゆ色ゆ多し現在ゆハ、五宗発上常寛釈之　色去ゆ
ハ滑誓侵髭恐懼俯伏而飲不過一斗徑醉矣　未来ゆハ項羽紀今
戦能勝高必疾妒吾功　以上ハ三動ゆ三世の助辞をめそ
よく活用の妙をゆ色こ、下色用ゐ助辞三格の條ゆ詳こ

活用言九法　活用ゆ言ゆ直説許可附説才二附説不定使令疑問不無不有の九法
あり、このうち附説才二附説ハ直説ゆも許可ゆも附説ゆる、此
九法ハ作文の要領ゆ天下万国一切の言語これゆえ言ゆ
とあゆこ、其法ゆとへバ鳴くといふ辞ゆ直ゆ鳴
くと　ゆ　ハ直説こ　ゆくべし　とゆハ許可こ　ゆけバ　とゆハ附説こ
ゆくとも　とゆハ才二附説こ　ゆうん　とゆハ不定こ　ゆけ　とゆハ使
令こ　ゆくゆ　と云ハ疑問こ　ゆくゆる　と云ハ不無こ　ゆゆ　と云ハ
不有こ　ゆこ色すべて九つこ　ゆる　ゆこハ色ゆ用ゐのこゆきバいゆ
ゆ　ゆる上ゆ件ゆ及件ゆ助辞ゆ色ゆて賞ゆ　ゆく　ゆどゆゆて
し既ゆ此法ゆゆバ賞ゆ音ゆ　ゆく　ゆるゆもゆゆし賞ハ実件ゆ
ぞハ才二能格ゆ割ハゆ実件ゆをハ所役格　ゆく　ハ直説法ゆゆハ
現在格こ、うくて能格ゆ君ゆ、所格ゆ臣ゆ、結辞ゆ民ゆこれ
を君臣民の三法ゆ、すべて九法の位置これゆ準則ゆ色べし
そハ色国の語法も同じこと、但色國語ハ、その君臣民の三法の
位置おゆく君民臣ゆ色こ、論語、吾從衆のぬき、吾ハ能格ゆ
て君こ、從ハ結辞ゆて民こ、衆ハ所格ゆて臣こ、西洋語も大低これ
ゆ　ひとゆ　ゆ　ゆとへバ　彼ハ　彼等ハ　官職ヲ能ク　知レリ　やうゆ色ゆ
を　彼ハ　知レリ　彼等ハ　官職ヲ能ク　とやうにいふこ、然きども其義
ハ皇國ゆ云ゆ異ゆ色ゆ、九法ハ文理圓活の妙用ゆ色ゆ
ゆ、学者ゆとにゆをそ　ぐ色　いゆ古ゆの序文ゆ論語ゆを引て

文例と仮あと近世の誹諧の句をも附出せるハ卑俗く雅俗に渉ることをさとさんとてしるあやしゝそ

直説

鳴類古序やうくうとハ人の心をあまそとてよろ州のことはそとぞ多きとゝる。一語ふていへバ俗くの類ハ不准之

学而学而時習之不亦説乎

ある類をとあるとに多らふ まぐみうそ

附説

鳴則類 世中にあるくあくとさ志家紀りの多きバむふかりふこ

とをそ仮りのさく紀よ法雀ていひいざせるなり

学而有朋自遠方来不亦樂乎友ガ訪ヒ来ルヿ有レバのこ

たち学てき来ぬ類とあれバおぼろなり

雖鳴類あとひときうつうこさりさとくさりの形ゆきうの

ゆ二附説 雖鳴類 ゆ附説ゆ雖字のこあれバゆ二ハ則字ゆこ

学而人不知而不慍不亦君子乎人知ラザレ用又人ハ不知用のこ

かうくとゆへゆ学くやゆきのうゆ州くくハをてん

鷹鳴類とゆきとくゆ仮ゆ州のゆもかくゆ州でとくなるべし

許可

八俗夏礼吾能言之杞不足徵也吾ヨク言フベシのこ

ゆきをゆ鬼もうひゆ仮ゆ州ゆこそべう

許可附説 八俗文献不足故也足ラザレバナリのこ

許可ゆ二附説同 足則吾能徵之矣則字ゆ二附説ゆなり

使令

鳴類いすゝへ乃来ゆそ弓ゆ州ゆ州ゆ州

使令餘論

使令法を世ゝ和の同ゝ[illegible]こハけせて相へめえ[illegible]
きすゝハ呼格よりやの辞を活ていひ[illegible]こそ[illegible]あぐ云

計使令　吹類　古妻ゝる風ハ色のあゝりをよまて　ゆけ　ゆづゝやうゝ

世使令　残類　古妻ちりぬとも妻をぶに　のこを　ゆけ　妻ー妃所の君ひ出

豆使令　立類　古哀傷ゝ川妹ハかゝをとつゝも形ぐさめつ帯ゝるされ山

閉使令　匂類　古冬ゝて[illegible]ハゆきふやゝ[illegible]てゝぞとも妻をだるてほ　へ　人の志るべく　同雜ハとせりてへてへハといへの約束

免使令　盗類　古春ゝ[illegible]の色ハうすみゝこ発てゝ[illegible]ぶとも[illegible]ぶに　ぬ　め

延使令　然類　古誹諧　[illegible]　社祢の[illegible]ゝ[illegible]ぬ[illegible]ひゝ[illegible]ゆ[illegible]ハ[illegible]ゆ　神ぐ[illegible]きぬ　[illegible]　風俗　[illegible]世波　[illegible]勢　[illegible]ぐも同じ　東語ヨセバヨセロ

礼使令　折類　古恋　[illegible]てといちぐ形てゆゆ形む志ひてゆくこまけ　[illegible]　[illegible]へのゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

呼格使令　定類　古哀　[illegible]ゝ　とハ　[illegible]人　[illegible]　同離別君を　[illegible]ゝ　[illegible]
同春　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　同羇旅人ハ　[illegible]ゝ
恨類　古哀　[illegible]風を明て　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　同哀傷山ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ
ハ　[illegible]

隠類　古秋　君波里形バ　[illegible]ぐ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　伊勢物語今ハ　や　発て　よ
新古　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ　[illegible]ゝ

叙疑問

如何類　拾遺あづまにふるきくくあく　財やまとてくひの杜ハ
いつふそ　後撰　ぎれきをとおく　序ぐ序ぞの類同じ
ぞを重ねくくハ新古うれ人の月ハ　あにぞのゆつア　と思ひ子
ぐくもうちみがめつ　比何ぞハ　いくその等とハ異と　でゝ古
春ゑが神ふれ　家の　ねぞも　そや拾遺いさ正あ　ほ士ゝ考へ
いづくぞや　ゆめぐらとてきといひ　そ

所聞類　後撰　ぞうくぬとがこゝ山べの時　木綿がくれの　ハ
きこゆや　古来　なのがそむ　壁の　と　ぞうくやや　万二

也疑問

壁のうへのうてぞ　ゑふきくぞや　の類同じ　やを重ねくるハ新
古ゑ　ぬめちハちるやちくやや　とや後拾　ふのあそ布　ひき
ちくとや　とやを重ねくるハ　千載　ゑの色とやいふとやいう
にいふ　ぬ　やとぞとを重ねくるハ　後撰君がいくかくやい
づこ　ぞうくぞ　千載　ぞや　かくさま　ぞうくぞ天　ぞ　わがよ
川ことハゑと　ぞうくぞや　や何後撰　かくぞひ　ぬかとうぬやふ
ぞ　同ぞうふぞうりの　ぞや何　ふ後　古来　けるがすくたてるや
いづこ　同雑　めりやめれ　ぞうくぞ　ぞ　又ぞめれ
れかが　ぞやのづら　ぞ　ぞみやこ　や歌　ぞ　拾遺　ゑ
ぞうくぞ　ぞのあぞ　ぞのあぞ　ぞ何　てるぞ　やハ古来　命やハ何
ぞい　ゑのあぞものを　ぞ　やも万三　ぞうくぞ　ぞやまいづく　又
ぞいみぞれて　ぞうくと　いとぞやも　同ぞ　ぞうくとぞ　ぞやれ　ぬくと

ゆく　同六　をのこやもむ　ぞ　ぞ　ぞ

○形容言葉六　形容云ハ用云ヒ活くさまを先形容していふことばなり
てふてふとひ多くは辞をへだつるもうるおぼつかの用云ヒ
でうでうおぼつかれバ此形容字面ハ漢籍よみまてハおろく二度
よみふるう例ヘ　マサニ云スベシ　マサニ云スベシヨロシク云ク
スベシスベカラク云スベシ云ヲシテ云セシム又イ一ダ云セズ
十ホ云ノゴトシ等シ又ネさきそいさきろうぶるぶるもミみ二度よ
このころこゝ是ヨ状態時令處在商量負數次才含有不有顯示勸
奬同等併合除去選取禁止料度疑問比較ゑど十八等あり
すべて形容云ハうつよくあらうとてあどりふ辞ヨこハはも
そのやこそにとてゑどの助辞をふまてその形容をりふ辞ヨこと
ハちくハげどばちくのようあでゆゑんごとりて
ちてぐはふぐてぐてぐてぐてぐうまつこ等の辞を添てその
形容をりふ辞又ハまひくうんもかへもくまあどやうの聖
辞ヨありうとに状態形容ハを詞いとひろし今ハを大旨ヘ
且見類古意　ふりかそはるる人ヨ意やうやうん　同序うつハ人のみこ
且状態
能不知類古序かまこをかよりてよくちうぶ　やうこべくあ
能状態
くそうあくあどもこのようと同じ格ヘ
専絶類古意ちうはうすのあちう除ぬる時ようそ人の意ちきあともも
専状態

轉状態　轉憎類古意あうろこ枝ううてあくを経　漢籍よみヨウタいと
いふもこのううてん
履波状態　起則歎類古意ハを起もあきくを人をや祈さくの四方のおくとハあどき
ぬとハちのどむ
履毛状態　辛苦類古意ハ苦ハ辛苦ハ苦ハ苦ハ

還上 狀態

奈我良類 古秋ぬ江ふてさゝゐやとハんゐみぢどのふりうら
てゝ乃と見ゑゐ上ぬ色と色ゑあるハ必ず上へ還るゝ。

物加良類 古支ゐゐゝぎ仮ゑゐ仮く里れあまゝ行ゑバ行ゑゐと
れぬ ゐりふりのゝ上ら色ハ色の句へゐへるゝ。

物由恵類 古秋あ行ゑゐゝて行ゆゝとめゝき 女部巻之四 ゐ
ひぬりのゆゑ

万尓万尓類 古離別ゐゐれをは山のさゝにおゐせてんとめむ
と色ゑづハ花のまゐ上色ハ三の句へゐへるゝ。

顔淵忠告而善道之。子張博学而篤志切問而近思 述而 竊比於
我老彭 先進 鉏耳舎慍而作 陽貨 蘧再而笑 泰伯 洋々乎盈耳
哉。 淮陰侯傳上 目怒目喜 同上 常從容與信言諸將能不。 范蠡
傳 唐挙孰視而笑曰 留侯系 戚夫人嘘唏流涕

形容云ハゐとひ多くれ語をへゐてゝ孔ゐうゐ仮ゝ下の用云ゐ
らる格子形が故ゑ漢語ゐてハ多く直ゑ用云と熟ゐるゝ。

時令形容言 手ごとに 強ぜ〻て 明るさへ おどゝ。

とハ時令ゑあづゝる よたび ふたゝび やうやく よもぎゝ いまハ

無間時令 ナクマナリ 考る散類 る ゝ 神の生ぜきに。

朝々時令 朝〻 朝〻 古祇諧志での四長を紀あくよぶ 同志 行さあくらん
ちゝ呼ゐ ちぎゝ のとも。

履波時令 イヤハタツ 今則絶類 古志ゐ丸ゐ ゐづゝ 今ハゐゐとや欠図の。 同志 かきゝ よ

履毛時令 ヒトヒモナシ 一日無類 古志ちいやぶるかを比郎ろのゆふぐを紀十日毛 君
を かきぬゐハゐ

履尓時令 イヤサニ今 今更拂類 古志ゐゐ ゐ ゐ ゐ 今さゝにたゝりぐ 神や
ゐ ゐ ゐ

省用云格　万傳下省用言類千載今末てハ一よ二後沢亞ざれど和きれ者のところせきまで　オノ上へうへらざるいト

用云をそぶきるゝ。をらハそのそぶりゝ用云を添てゆくこと。

學而有朋自遠方來

商量形容言　こハふうく　そつう　こゝら　いくそばく　あさく　をく　ちうく　とやく　おそく　ひたく　ひきく　あさ

深商量　深染類　古裏樣をよ衣ハ　りく染てきむ。　同意　うくゆひ

近商量　近植類　古春　ちうく　物の色　同じ　ちぢきあく　かゆ　人のあよ

幾許商量　幾許思類　古物名　花ぢとに　ちうぶ　ちら〳〵　ゆはきバいくそばく

履尓商量　僅見類　古意　君ハ　同春　淫よ　ちつかに

陽貨　多識　鈴鳥歌草木之名　呂不韋傳　引與坐　深語　滑稽傳　微

聞　鄉澤　上林賦　牢落陸離爛曼遠蹠　張馮傳上　大怒曰

負數形容云　こハ　一〳〵　ゆ〳〵　そつぞ　よつぞ　ちぞく　ひとりく　がぞく

一度負數　一度來ぢ　古羇旅　ひ〳〵　をに　ひとくぶ　きみ　てバ　同秋

履毛負數　屢見類　古雜　ろさ　れ系　よせ　ら　る　浪の　ちぞく　を　ぞく　の　ナ　き　ゆ

先進　屢空　学而　吾日三省吾身　里仁　則以喜　則以懼　平準

書　於是弘羊賜爵左庶長黃金再百斤焉　趙象　欲西王母

次第形容云　こハ　ゆ　ぞ　ぞ　つひよ　つ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ　ぞ

先次第　先咲彩　古笑　美　ぞ

遂次第　遂往類　古哀傷　ぞ

微子　孰先傳　写孰後倦　写

含有形容云　こハ　うべ　ゆ

ハエツクラム　まて含有ン　同中　延須々美伎　とき　ゆう

宜含有　宜謂類　古秋　吹　ゆ

履也含有　有理哉　被寢覺類　新古秋の　ゆ

里仁　遊必有方　學而　吾必謂之學矣　述而　誨吾將問之　張儀傳

我顧直盜而城　焚券祇取辱耳　袁盎傳　迺爲中盎校尉司馬

不有形容云　こハいとゐるゑ　えそ　えこそ　いやぶ　ゆて　あへぬ　をひこで　すぐし。
俗語ゆて　イヤまさトントるぐ　いゆ　さぐひし。

不不有　不知類　古来人ハいと　ゆま　ゑ〜ぐ　ゆるゆ　ゆ　ゑぞむ　れ　ゑに
不知類　ゆほひ　れ　ゆ　ゆ　ゆ

るといひたるをうけたる者ども[illegible]ば[illegible]
よりはハ行ゐじとかゝるべし。又万葉の[illegible]
いひつぎど[illegible]あるも古歌[illegible]ぎりのうちに[illegible]
同じ　まゝ後撰つくるとき[illegible]
川乃下こハ同等形容云れのをそぶきるこ、みなれ川云このみなれ
さこ、のハめと獨立代名云ふれがゆゑに同等形容ともあるこ、

左同等

左許曾見類拾遺人をル云ハ　さこそ[illegible]　金葉さこそハか
左毛許曾有類古歌うつゝ　ゆゑ　さもこそ[illegible]　左ハかと汎称代名云こ、
拾遺さもこそ
左叙奈登思類千載あまのみなさぞおもふ　[illegible]
先進同也視予猶父也予不得視猶子　倉公傳已愈如此俗語ヨテ
ウヒといめをこの猶字姒字等のさし　孔子象東門有人其顙似
堯其項類皇陶其肩類子産然自要以下不及禹三寸　墨子若喪家之
狗　陳陟象等此国可乎　始皇紀而天下響應

併合形容言　こハ　ともこ　るべよ　るこに　ものとに　るべて　るゞこ、

履尓併合

並來類古秋我門よ　ゆかるを　ゆく　ゆくるべよ　ゆさ　ゆくゆ　ゆ　ゆ　ゆ

履豆併合　並賢類古歌秋風のあさと吹ゆるむさゝゆハ　るべてくさ葉の色
がハとなるを
述而互鄉難與言　憲問見其與先生並行也　始皇紀山東豪俊遂
竝起而亡　秦族兵　孟嘗君傳相與語　淮南傳神慮注王
除去形容云　こハ　わきて　すてて　あとに　より　ものに　るとこ、

殊除去

殊寒類古秋あ紀の歌ハ歌こそ　あとに　をうこし　同歌ばき　より
ことにあるさる我歌
分除去

分立等類古秋ヨび人の　ヨ　ひて　立より　このみハ　おむ　うぎ　おくあ
ぢ　ぢ　ぢ　ぢ
鄉黨使々言唯謹再　越系至其妻及邑人盡哀之唯朱公獨笑曰こ

選取形容云　こハ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ　ゑ　ゝ　ねバ
ゑどいふこと、漢字の寧とあるべきこと、
選上選取　奈良称波類新後拾遺　ながきうゝよ　久米ハいと様とてもよを後うそ
つゝ　よのさまう　こハ我身あゝねバいつゝなを
ひとて祢ぞあきぞ　おゝ古秋天の川浅瀬ゝ流ゑとうつゝ　わ
を流てなくさまて、やゝて万ハよハ、おもをもいやゝ　ぞ　ぞ祢ぞ　ぞハ
ぬよ　ゝる　ゝ里よう　ゝ　ゝ　ゝ

魯鄒傳吾與富貴而詘於人寧貧賤而輕世肆志焉酷吏傳寧見乳虎無循寧成之怒

禁止形容云（イマシムルサマノコトバ）　こハなやきそ　うたるを　いかをゆめ　ゆるるのりそや　あどれ辞なり

して漢字ハ毋勿莫等ある〳〵れり

戴奈禁止（ナ）　莫鳴類（ナキ）　古秋ぎもぐ次いさく　形〳〵きそ　同妻うをが登ハるあを

ソ　なやきそ　まよ山伝ハ河やあてさ紀そ　万七妹が行さ

りもが神ぬ〳〵ん木ヲよりいでくる月にやとあ為ふひき　同十七

あかりとあるもびもがせこ豊らハ下の枝をちがれり　拾遺ヲ

いあれそを　ハみを命て下をそをといへり　そしハそまを誤り

てよりともいふべし　え浦葉よハ妻がをみたちあ〳〵よりそ

とよめり　夫木角河れバとて多紙ハたのそそこハひがらとと

新拾ゆめをのりそや　〳〵里もそをるこハ上ゆゆを出そう

履奈禁止（ナ）　勿語類（ナク）　古秋ゆれかちふきとくるうるを　同文今さらに少へ

かへるあ　ひ〳〵ぎる　同意ちふひがおゆ先

雞也毋以十モチソのさ　顔淵非礼勿視非礼勿聽ヲ　高祖紀非

親子弟莫可使王　斉矣十ヨク王タラシメソのを

料度形容云（ハカルサマノコトバ）　こハ天〳〵ハ　ゆどのさどひ　てり　そう　辞ヲ

大氏料度（オホカタハカル）　大方鳧類（オホカタ　ハカル）　古離別　くやり北是ゆうく　に天〳〵ハ　いきう〳〵とい

ひいぶかへりなひ　同雑天〳〵ハ月をまめでじ

里仁蓋有之矣　季氏吾恐季孫之憂不在顓臾而在蕭牆之内也

淮陰侯傳顧王策安所決耳

疑問形容云（ヤタガフサマノコトバ）　こハ疑問代名云の何誰等の辞ハおやかハとびあどの助辞をふ

えて形容云とをまるこ　万三あにあらめやを　是ヲ疑問形容ヒ

欸疑問（ヤ）　涼欸（スヾシヤ）　登立寄類（タチヨル）　六帖すゞしやをむ〳〵ごとにさちよれバ　後撰

くやくとあれ　ヲくれと

何疑問（ナニ）　奈尓曝類（ナニヲカ）　古雑なふ山びめれ布さ〳〵ちるむ　同意夜むりを　ヲるる　後撰

いひ〳〵ひ　同雑うきう紀をあるく〳〵ある　同雑うきう紀をあるく〳〵ある

なふをん　同じ　古序なふうハ　ヲを知とあざむく　六帖なすー

薬をそ　ゑう〳〵ハし　ホるふらん　新勅ちんなみ〳〵に思ひ初ん

新續古　あふと　風のとこそらふらん　後撰なみとて人を何ふと

ひつ〳〵ん　古意何　人を思ひそめん　後拾何　うを人ル

きてくも　万二ホ　おに〳〵ゐ　武ヲ六句ようう　紀君が好ヲを忘

ゑをぬも　夕意を我むを孫ふや　うく形容云ハいくら句をへざて

〳〵ゐ下ハ用云ハかくるい　御ゆよ先達の説ヲあをハ別ハ　かれ

ふて切きくりをふやのやへうけて見べ〳〵とらへるハくハ

う〳〵ざるこ　古意ある〳〵ひと絶つくこと　世紀とぐむ〳〵ん

ともよめり　躬恒集ゆさやうぬ　石やをみぞこハ何ぞゆきやう

ぬのを　古離別かへる山何ぞハ　ヲて　こハとあ〳〵ぬヲ　恨る　い

せ物語　ちろ　ひう何ぞと人のとひし時　古意ハ　ハ　ヲふを思

とぞこハ雅俗よりいひくもてる。狭衣あゞあこ乃ゑ思ひみやま
も　古意ゑゞか　ゆゑ意ゑ～ゑせん　駿河歌安世加ゑ同じ。後
拾　ゑゞてかく雲うくる～ゆ　同ゑゞてうは百きまくる名付物
ゆん　風雅たがゆくへとゑゞやふきこぬ　古意ゑゞそゑうく
俗のかうゑてりゆ～ん　新後ゑゞ～ゑ海ゑ妻のうりがま
續古ゑゞぞやうく意べバくゑ　古意ゑゞ～ゑ思ひやゑゞそと
万四こぐらめうをよゑ　古意ゑゞ～ゑこぞらゑめ　新古ゑゞ～ゑ思ひ意て
ゑ～む　古意みゑれゑいうにまちえむ　万八いうゑつぎきや
夫木ゑゞをもいうにいうにせん　拾遺いうふやいうゑめんとも
後　古意ゑゞいうぞうり人の云の埋蔵～ゑ～ゑ　万二七いうさ
ゑに思ゑゑを意う　拾遺いうで意ゑゑ人ゑ意ゑ～せん　同いうで
いうでいうゑゑを。古秋山ゑいうでうめみぢそめゑゑ　拾遺
いうでうと思ゑゑ　ゑのあるゑゑ紀ハ。夫木いうでゑゑ思ゑゑハ
古ゑゑ名いうぐ　さ紀ちる意ゑ意ゑ思ぞ～む　新古いうぐハをべき神
の意づくを。古秋いづ～ハ　秋の長～てゑ歌ハ。後撰ふるさと
に君ハいづ～とゑちとそぐ　ゑゑ新古いつゑきとてゑ意～う
ゑ～ん。こハ時令ゑゑあづうる疑問形容云ゑいつゑいつしゑゑぐ
同じ。ゑ～こ古意ゑゑをいづちやらバゑゑを意ゑむ。こハ処在ゑゑあづう
ゑ疑問形容云ゑいづこいづくゑぐ同じ。ゑ～ゑ古いく名ぐ里
空物ゑゑへぐてきぬこハ負數ゑゑあづうる疑問形容云なり。

誰疑問

誰見類万五。みゑ～しせうしいゑをゑれ見ゑこの者ハ志を写ー
誤ゑるものゑるべきよゑ先達既ゑいへり。千載ゑむゑ
をゑゑ～とハたゑゑいゑ　後撰都ゑハたゑをゑう君ハ思ひいづ
ゑ　大和物語ゑゑみゑゑたれゑゑうゑゑゑる。古春たゑ
うハ　要紙　ゑ～みえてたる　記下ゑゑそ大ゑへゑゑををこれを
書紀ゑハゑゑゑこのゑゑかゑゑゑゑとゑ。催馬乗ゑゑそ
しゑ中人ゑゑ～みゑとハかゑゑちせゑゑそゑ～とぶ～ひゑくゑや
色塗欲ゑがよゑれそゑ～ゑゑ～ん　古雑ゑゑをゑゑゑゑゑゑゑ人ゑを
ん　同春ゑれ～ゑもとめて打ゑる　同ゑたゑゆゑゑゑみぐれん
とゑゑ　六帖たれゑゑより思ひみぐゑ～　ゑゑでハ。古秋たがぬざ
ゑゑ～ゑゑぐゑゑぞゑ。
八俳　ゑ美取於三家之堂。為政人写度哉　顔淵盍徹乎盍ハ何不ゑ。
子路又何加焉　張儀傳儀何敢言伐寧滇能乎　魏豹何待克哉。
刺客傳子將何欲　淮陰侯傳何為軍壯士　蒙恬傳何乃罪地脈哉。
鄭家此與晉之里克何異　魏豹惡得與魏成子比也　張儀傳吾寧
不能言而富貴乎。　黥布傳何其拔興之暴也　始皇紀豎世ゑ賢哉

比較形容云　こハよりをくより近くより長くよりみぢかくよりとく　よりる
そく　ゑゑ～ゑゑゑを比較ゑる形容云ゑ。
自先比較　自老先類　古秋お紀の意ゑゑ紀ハハうざしてむ意ゑよりゑ紀
とゑ～ゑ意ゑ卅を。同意ゑるよりゑきにみきんじめつる

同意 つゝきくよりまづおえじとて
爲政先行其言而後從之

通用形容言毛類

のりを はつも そ
美類 古意とひがごと
こちちうぬ色を
ヒとと とめ しと
ぞやく 又風をいと
後撰 云ぞうぬきるくるくや
まと万十七 たとろ
そく ぬこそれて まこと
られまゝ 形容云の属と志るべし
ぞゝ さゝめみきこと
し降まし 不降もし
カロリ 万十二 ヒだもこは意をべなかは
カ利類 キ ゐてをべなきなとりふこと
志類 万一 系ゝ志ぬぞゆ
咲ゞ社ゝ ゐるゐゆるゆも
ぞ 天家人し ひさりそらしを

い ぐ も ま こ と も い ぎ ゞ も ま く た く
志ゐゝ く も

ま こ ま め よ ゝ を ゐ を 同秋ぞゝそゐる
後撰 又万十 まつよくゐゝを 又万 ゆめ
め ゝ こ ゝ て 又山ゐを 気
ゝ を ゝ ら め ゝ み を サ ニ の ゝ こ
ゝ や 古意 ゐ ゝ さ ゝ て そ 神 ハ ひ づ ら め
ゝ り ゝ 辞 あ り 式 類 め 辞 よ た ゝ と ゐ り あ や
ま こ か あ を か ぐ ゐ し か や そ し ゐ ど り ゆ も ゐ り
ま と 後撰 神 社 伊 ゐ り ゝ ゐ ら
ま ゝ ま ま ま

しかを　万七　古意　ほそれ　万一　古
そしもちそに　ゆきども　古意　ささなみ　万七　重み　を
や　古意　こゝあり　万十八　ちくを　ものや　ものと
古文　宿を　同意　秋風ハ　身を　ちもふゆく　後撰
かゝまとて　ゝ　ゝ　なでぞやきん　子ハ百　松ふゝ　ちもハか
しまそめきん　ちも　ちを　ちるハ　拾遺　ときちもあも　秋ちる人
のヒゝろれば　万四　物のミゝぞかく　八　なくヨゝぞおかき　同
古墨　旅を　ぞ　ふの　同意　なみゝゝ　人を　同
妻　ふれゝゝ　同　きなすゝ　同大欲かゝゝこそ　子を　をか
きてたのゝきを　へめ　いせ　後撰　ゝしこそ　きみがみきとた
てゝゝ　ゝ　ゝ
ゝゝ　ゝ　ゝ
ゝゝハンカレ　ゝ　ゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝハランカレ　金槐　ゝ　ゝ　新　ゝ
山ざゝゝゝ　ゝ　ゝ　

須良類 曽丹集とけてすゝめるゐどもなき みゐり面をねざめがち
ふてあうゝころろか。

乃美類 古意人志をぬ思ひのこそそるびしれん やさ哀歌きを
ハるれのこそ志が 同誹諧袖きあとをさのゝゝゆゝむ

余利類 古意いまこんといひてゐうれ〜 あ〜ゝより ゐゆひゝ
しけぬをの〜ゝぞ なく

万傳類 古雑みやこすでえできかよんゝ かゝゝとハ。 同矣いそ
ゐゝとゐりてこをのむをすでびゝよハ 坐セと詞を添ゆし。

加良類 古雑戦ゐうゝ うき世中とゐぎきつゝ 同秋あくゝうゝに
秋のゆゝ木の志をゐれバ 伊氏ゝゝどの法子ゐ〜んゝう

比 矣茂女集ゝ谷のゐうこゝ にゐゆゝうゝにその花いや〜かゝゝ
古意いつゝとゐりゝと ゐりゆゝゆゝう 同妻ゐづゝゝや

由恵類 古意人めゆ志のちにあふひのちるけくハ ゆゝこゆきて
ハきめる ゐのゆ志ゐ

那武類 古物名ゐりとよりをゐれて武ゐつゝよめやこれゐむそ
れとゐうつを えんうし。

基登類 古金宮ゐふをバ 木ぐとに花ぞさえゐゐる 同意 同あくお
とに花ゐ ゐゐ ゐそつく

毛豆類 古序えちす紫のゐ ゐゐ ゐゐて 拾遺 ゐゐてち
らんぐゐこそをゐ〜め。

志豆類 古雑八重むぐゐゝして門させりて 伊勢物語ゐゐゐ
てむもひ ひゐをひとりして。 新古宿ハおくして

加保類 後撰中ゐりぐほにこひしきゐなそ。 金葉ゐゐ ゐうゐ
ゐりがゐゐて梅ゐえれ ゐゐ我ゐそのゐりせゐ

奈賀良類 古秋ゐ〜ゐむ人ハ枝をゐ〜みゐ 續後撰つゝさゐ
ゐれゐゐのゐをゐるべきこハ仲云ゐいひゐうなる。

賀豆類 古雑などゐ我身のいでがてにそる 同妻すぎがてゐ
人のゐゐ〜ん 近昔語行がてのハ仲云の格ゐ。

賀豆良類 古意ぬきゐへがてゐうこゐがてゐ ゐゐこそハきめ 後撰ゐぬ人の
ゐこゐ

婆加利類 古意志めゐ命ゐきゐやそるとこゐゐ ゐのをバゐ
ゐゐ ゐゐ ゐゐ ゐゐ

万ゐ類 後撰時ゐうゐ序ゐ雪ゐゐゐ

○接續云才七　接續云ハ、切さる辞の下にかきて上下を連ねつゞくる辞さ、れバ接続云ゝあへバ定まれる結辞も格をぬがへてかにつゞくらゝあり。これ接続云の格く、是又合連分裂舎説違戻原因議定設令選取除去逮及敢保説明の十二等あり。

合連接續云　こハ上下をあハせつゝぬる空ゐ　とも　ゐも　ゐもの辞さ、　まゝ

登合連

登類　古秋もむぐらしの宿つらなべて月ばく見ぬ　と思ふハ山ぬ流ふぞ立ち侍　後拾かぶ　後撰　こもれる人の　是ハ　宮まれる格まて　とだりへども　古歌　ものを見ぬ　をとをふをとりた手け

登毛類　古雑　紀ニ　ハ門させり　とも　見えぬくゐ　書紀神　とも　万十九　いきるこもの　のるハ　の誤ら

登合連

登類　後撰　紀ニ　ゐ　きこえて　後撰　後拾かぐり　ゐかぐれ　此類多し　又

尓合連

尓類　古序　をとこ山のむら　ゐ　ゐ　ゐ

將分裂　波多類後撰無風のふきバさすがに[illegible]とぶ[illegible]とよのあくあり[illegible]
[illegible]　新勅[illegible]とよひる我身[illegible]ぬん

或分裂　阿留波類古序[illegible]ハ[illegible]ぐ[illegible]ふかぐ[illegible]れ新[illegible]ゆる事と注[illegible]
[illegible]

柳分裂　曾毛曾毛類古序[illegible]ぐ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]かく[illegible]ふもかく
[illegible]

述而若聖與仁則吾豈敢柳爲之不厭誨人不倦則可謂云再已矣
孟嘗君傳馮先生甚貧猶有一劍耳又蒯徹　左傳昭八柳臣又聞之

舍說接續云　こハ上を捨て下紙說く雖[illegible]ぐ[illegible]さてハ[illegible]ハ注むり[illegible]て未然のと[illegible]あり

登毛舍說　登毛類古雜位吉と[illegible]ハつぐ[illegible]ハ[illegible]ぬ[illegible]ふ
[illegible]　新古人をまりちの山より[illegible]ハとおれさ[illegible]

縱舍說　多登比類古序[illegible]ぬ[illegible]時[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]

還上舍說　登毛類古秋萩が[illegible]ハふく[illegible]

子罕拜下礼也今拜乎上恭也雖違衆吾從下　項羽紀縱江東父兄
憐而王我　何面目見之縱彼不言籍獨不愧於心乎　籍使[illegible]同じ

違戾接續云　こハ上よ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

還上違戻　祢土類古秋、尻ゑれバ、ちぐ、ゆるの、こそかゑ、ゑれ、ヒゞミ、ゑとつの秋、ヌハ、あら、ゑ、ど

礼土毛類　後撰、ゑ、ゑ、ゑ

祢婆類 古秋天の川浪あどりつ わくりそて祢バ 思ハ
又三 ゆるぞ志まれる 祢バの下に辞を添てなくる既ゆ

還上議定 奈婆類 古志我のくやせ河瀬とゆるひん人の心の弟とちりなゝ
後撰 出てとふ玄蕊を注ず 月の白雪と成る猿の心
礼婆類 古志猿なくなそめぞたき橋を立て世中をてしうれゝ
同 下ゝ弟種とらず を多すれいとかく雑き知と知せ
八俣 然則管仲知礼乎 魯鄒傳臣聞之者何則無因而至前也 李
斯傳 何也則 能罰之加焉必也 越系由是觀之何遠不為福乎

設令接續云云 こハすを設きて説く り の部るて漢字ハ若還設或儻あどよあ

若有設令 若留礼良婆類 古序このうこれ り 何をやぎの糸ゆえむ松の球
もれちりうせぬ しまさ紀のうづゝもくつとハ
多のあと久しく とぞまれらバ こハ若不絶長久ニ留マルヿ有バ
のきこ本わ り の下にあるをやとりゆ四 りあるハ衍文なり
千一有婆類 古雑 あくゝそる とふ人 あらバ 次ナの俗にゆ ゆた
きつ らぶとゝさへよ

雍也善為我辞焉如有復我者則吾必在汶上矣 滑稽傳若親有嚴
客 張馮傳今盜宗廟器而族之有如萬分之一 假令愚民取長陵一
杯土陛下何以加其法乎 伯夷傳儻所謂天道是耶非耶

選取接續云 こハえらびとる ゆハ ゆハ ゆハ

八俗、禕自、既灌而往者、鄭陸傳、自天地剖判、未始有也、平準書、興利之臣、自此始也、范蔡傳、先生之書、從今以往者四十三歲、

逮及接續云　こハ下文ふかよるべ、てゆかてさてうくてなどゝ、漢字の所ゆあるとまり訓蒙題式ゐ、血脉貫通、非此字不可、とあるも逮及のさゝ、

豆逮及

豆類　古雜清澄れたるの高くうゝ高てゆ山ゆ云ゆ、てきゆ、古意、起りせを、子ゆ石高、尊ゆいゆ、愛ゆのゝこそ、ゆゆきて

ぞ祢ゆ高ぞ、実ゆ、てい、実の物として、祢高つ、同雜、ゆれ、て、ゆ久しくありぬ、同意、高ぞの山、ゆりとをゆ、てぞうへゆめ、

新積古、う紀、ゆ、ゆ、も歌り、ゆ、て、ゆ、ゆ、ん、古意、山より月のい

でゝこそうれ、

尓豆類　後撰、雪ゆ、ゆ、ある、ゆ、ゆ、ゆ

還上說明　登波類　古秋ちハ　やぶり　沖ゑ　きり　ゑ　川　かゝ　くま　那ゐ　ゐ
みゝ　ゝ　保　とハ　日　同雜　ゐ　ゑ　ゝ　ゐ　ゐ　ゐ

なげれつる。万葉。從此鳴度古今集下詞。山川より蒼の流き出るを
よ名る。源氏。次磨。たきより舟出るのうゑ〳〵まてこぎゆく
など云。さらのより。ゆ。今世の後うゑ〳〵バくるをとりめべし。漢籍よ
みゐ。みゝよむ。於字を或ハをゐもあてよ。をもあてよむもけ
さゝ。さなれ子細あるが。なほ。この指示云の品をとるべ。

所生指示云 こハのゐゝのゐゝのうへゝがちゝ。おどりゐふ辞ゝ。古物名。妻がゝ
ゐゝ。通俗ゐゝ。さバ。こハ春震の中ゐといふさゝ。

乃所生 之上類 古意。うゑ。ゐ。ゐ。ゐ

○感動云ヵ九感動云ハ、すべてうれしく紀ようつきて紀よりくく感せらるゝ時のなげきの辭あるを上うるまく驚歎驚

蹕あぐし漢語の歎声於乎嗚呼於戲噫嘻呼惡咨嗟等之こゝ

或ハ發語ゆ噫字を立て下のりのゆを傷ゝ或ハ篇終ゆ噫ゆ呼

字等を立て前ゆ、あゝゆを恨む、生ゆ悲哀歎喜驚駭示威祝賀要須

讃美辱罵侮慢發笑招呼哭泣禁止怨怒勸厲恐怖教諭十七等あり。

悲哀感動云カナシムナゲキコトバこハあゝうあゝうあゝなあぢきなやなどすべてうゝ

むゝ多なり。俗語アヽ悲イ 小說略々アヽ。

阿奈悲哀 阿奈憂類古雜ゆ、なげうきぬ 阿南悲類今昔物語あゝ出ゝとも出ゝ

あれゝうよの乎。 と云續きて。

奈悲哀 悲奈類古哀ゆの發きけバうかゝーな 拾遺あぢきなや 先進噫

悲奈類天喪乎。 雍也亡之命矣夫 翌武傳嗚呼哀哉云嗚呼哀哉

禍所從來矣。 韓盧傳於戲悲夫 韻會刊謬正俗嗚呼嘆辭也或曰

其美或傷其悲末代文士軌爲体例若哀誄祭文即爲嗚呼封拜冊命

即爲於戲謂嗚呼爲哀傷於戲爲歎美妄爲穿鑿按詩云於乎小子未

知臧否豈非傷王不知善否乎於乎前王不忘非美先王之見称頌乎

書云嗚呼昌歸予懷之悲此即哀傷之語嗚呼感古欲愛允濟此即褒

美辭但古文尚書悉爲於乎字矣

歡喜感動云ヨロコブナゲキコトバこハよろこぶゝうれしーあどゝ 俗語オヽウレシ

阿奈歡喜 阿奈字礼志類ゆ、やいそせてう。

驚駭感動云ナドロカナゲキコトバこハ多くこゝ感あれこハ何のなどゝ。 まゝあやしなどゝ

辭いあやより出る辭ゝといつゝ。あやハあるゝ同じ後ゆハア

ラといつゝ。今ハヤレともいつヤアも同じ。小說或音ヤイヤア

ゝ阿呀音アハヤア或呀音ヤイヤア或呀約音ヤイヨ皆アリヤヽ

阿也驚駭 皇極紀中大兄見子麻呂等畏入鹿威便旋不進曰吐嗟字ゝ果

吐嗟類補吐通咄又類聚名義抄ハ咄字をヤアとよまをてう。

叙也驚駭 是何事叙也類金葉あきてやこハ何のさおぞとよ感せよと

古詩諸雲云れぬあさぬの山のあさまーやこ人の心を見てこそや

やめ先達辭アヽリケシカラヌキモノツブレタヽヤノ

虞書帝曰吁嚚訟可哉註吁者嘆其不然之辭吁字昔より ヨンノと

よそう。 又嵬瑰玦傀兒怪偉等ハ非ゆのあを驚嘆もる声ゝと云。

示威感動云オドスナゲカトバこハきいひゆのうあどをーくうどの歎ゝ。 俗語シイはさシツ

驚蹕示威 乎志乎志類枕左ゆ日のかまーれうさにるものをいるあるを

たゝしまいれいるどをーくといふ好きこゆ。

韓長孺傳梁王父兄皆帝王所見者大故出警蹕入言警

祝賀感動云　こハあるゑのとまろうるぐ〜わぐて〜ゑゝ　俗語アハメデタイ　小説菜喜メデタシ〜　萬福ハ婦人の辞ゝ

阿奈祝賀　阿奈尊類　催馬楽あゑゑわ　呼萬歳　項羽紀楚軍皆

要須感動云　こハ形ゑこの　語ドウガ十　酷吏傳嗟乎冷冬月益展一月足吾事矣要須のさ

加要須　奴加類万四ゑさ〜と北ゑゑ　奴加奈類古雑とゑりれうとゑ　そゑゑひぬうゑ

奴加毛類万六ゑのとこいその老ゑ〜ぬうゑ　同八かりのゑハきこえこぬうゑ

賀要須　毛賀類古ゑれいぎ〜ゑゑの薬　志賀類古東欲かひがはをさや　ふゑゑ〜が　後撰いせ

毛賀類　もが　同ゑとの　古ゑ万ゑ〜今まゑて〜

の海ゑ万そぶあゑ　同ゑ　ゑりゑてしげゑ　ゑつむやと

が　毛賀奈類古奈君ゑ八子代ゑ逢ゑ　ゑがゑ　万一老ゑ　ゑがゑ　古東欲人ゑ　ゑがゑ　ゑつてやら

ここをとめゑて　古雑ゑうへそゑの　ゑが　志賀奈類金塔ゑ秋ゑ〜で　ゑよぶ

ん　同雑ゑうへそゑの　ゑが　志賀奈類金塔ゑ秋ゑ〜で　ゑよぶ

なや　涼橋姫をゑがゑハ誤ゑ　ゑ〜ゑゑ　ゑ〜ゑゑ　古雑み〜ゑれ

赤ゑ万ゑつゑ　ゑとうゑ北ゑ　ゑ〜ゑゑ

やまゑくちゑしえてしげゑ

賀祢類万三ゑ人ゑかうつぐ　同十二里人ゑかうつ

ゑ戸の夕陰ゑ北ゑ白ゑ万ゑをぬ　ゑゑ　ゑゑ　ゑゑ　同八かりゑ　ゑをしゑゑをきぬ　同四我

祢ゑハゑゑのそ〜しき〜ゑ　辞ゑて要須中の一格ゑ

婆也類古友まぐ〜きゑりどのゑをきゑ　後拾ゑあ〜ん人ゑ

也毛類書紀元通姫とゑ〜へゑ　又きゑ　ゑそのゑゑゑのゑ〜ゑ　礼也類万六ゑゑ　後拾ゑ

あきの伊ぐゑあ　ゑゑ　ゑゑ　ゑゑ

與辱罵　於礼與加也都與松敦公をいとなめくうゝゐ彩ぞ多うゐ紀敦公よ
也辱罵　阿奈汝也類　金埼ぶあるゝ　項羽紀喚豎子　六帖あるわづらふ
られよ　かやのよ　なれがきてぞ　ゑハ図よ　ゑ同
らゝぐろの君が　ゐや　不足與謀
侮慢感動云　こハ人をあざろる彩ゐ。　古妻ゐうゝ　ゑき袖をもいろうゐ　けりど
くゑのうゐ芽も芝ゐうゐ　俗語　レヤチヨコザイナ
也侮慢　阿〻云〻也類　記中阿〻音引　志夜胡　志夜此者嘲咲者也　古誹諧い
阿〻云〻也類　記中阿〻音引　志夜胡　志夜此者嘲咲者也　古誹諧い
でゆ　ゐハ大幣よゝて　子孫　憶斗筲之人何足筭也
發笑感動云　笑彩哭彩ハ大氏美国ゐ同じ　笑彩ハハヒフヘホ　カキクケコ
うと重ぬるゑ　小説呵し笑カラく　笑フ　嘻々的笑ヒイく　笑フ
波發笑　波登笑類　栄花ゐ見も　又桜うちわらひぬへバみゐ行〻ゐくゆ
波登笑類　栄花ゐ見も　波氏　ゐ〻と笑ふハ口を閉て
とわらふ　と云うとゐ　波氏　ゐ〻と笑ふ　又書紀ゐらくゐ
笑ふ皇中ゐ音ゑ　宇治拾遺　きやらくと笑ふ　生ら亦笑彩ゑ
ゐぐも笑ふ彩ゑといへり。　嚆軒渠胡盧又局ゐ　生ら亦笑彩ゑ
召呼感重云　こハゆよ又やよふ通ふ　ゐ系いを　俗語ヨイヤイ　ゆゝ式祝詞
祈嘲のヲン　いゐもうゐのイ十ウ　漢籍よゝの井ゐも生ゐうゐ　ゐ
也召呼　載也類　駿河欲也宇止者末尓　履也類　そがつゝゆ伏ゐの里
載也類　駿河欲也宇止者末尓　履也類　そがつゝゆ伏ゐの里
大系ゆ　をゝうの山　ゑ
故ゆ　いせの海ゆ　志き浦ゆ　大系　ゐゝてるゆ　雑波　後拾梯
ゐゐゆ　同ゆゐ志でゆ　古序雑波つふさくゆ　けゐ　同志ゆとく

ぎ次ゐゆ　さゆの　後拾いゐふゆ　なあやゐくの夷のゆ
詞系未ゐの　あれあゐがゐのよゆ　後撰世中いう紀ゆのゐ　ゐゐゆ
けゐゐやハナリヤのゐ　万十二ゐだゐこゆ　同十六だんを
ちゆ　古志ゐゝむゆ　人を　同雑いゐゆ　風雅ゐゐゝ　ゐ
く花ゆ　ゐ系をゐる　祖に　万十ゐつ人ゐゝ　ぎ次をゆ　けをゆハ
ヨヤの義ゑ　同十九ゆめよゐゐ人ゆ　後撰よゆゐのをゆ
新古ゆくゐゆ　生らゑを召呼　波也類　記中みまきいりゐこそ
感動云ゐゐめぐひあゐう　同侍建命ゐ　伺あづ
まそゆ　同ゐ　ゐそのゐ大刀そゆ　名恭紀彩雑人伺ゐ祈めそゆみ
いそゆ　雄略紀仁賢紀ゐもあり。　拾遺かゝゐ　そゆ
毛也類　記下ぬでゆゝぐそゆ　かきゆゆ　皇極紀いへもゐ
毛也類　次ゐゆ　万二ゐ　そゆゆをみこえゐ
加也類　玉紫ゐゐゆ　そゆゆをゐうゆ　さんばかきゝもわが波ゐハ
加也類　あきぬよのそゐ　拾遺何とゐゆ　くゐの姿ハ思ゐえで
古曾也類　拾遺ゐゐ　ゐゆ　ゐぬくゐゐゆゆおひを
與召呼　履ゐ類　拾遺ゐろが名ぬよ　いくよへぬゝん　同ゐをつをてざま
履ゐ類　拾遺ゐろが名ぬよ　いくよへぬゝん　同ゐをつをてざま
人のしゝぬよ　後拾ゐすれずをゐかゐゝぐよ
毛ゐ類　万一ゐとよをよ　同ふぐゝゐよ　五ゐちゐのかゝらハ
しゐよ　記上ゐとゐよ　記上ゐとゐよ　殷宗紀ぬでゆゝぐゐよ　ゐぐ
○語學新書上卷感動云

奈召呼　奈祢東欲者礼奈天乎止〻乃部呂奈宇太止〻乃部乎奈　万一・元
つゝふる　同四・元ハこひんる　拾貴若にくるよる乃
恵召呼　恵類書紀ゑゑくゝ　元　ゑゝ　元やし　志元や　万四・元ハさぶ
恵類書紀ゑゑくゝ　元君ゝ　元　十四・元ハ結ん　元
伊召呼　伊類書紀きのるくゝ　留ふきのゐる　續紀宣命の詞もみな
万三・元ひいハまをせ　四・紀の笑ちい　とゞめてんかも　十
二・ゑる妹いいぶゝ　みちん　ぎらハゝる仲云の下につけゝり
同三・ゑのをのをえゝい　妹ゝむをびてし　七・元ゑゝい　ゐゐ歌き
つるかゝ　ぎらい用云の下につけゝり　いいやゐ通ふてやゝ同じ
梵語すも例あり　又ゆきさぐゝるをいゆきぱぐゝるともいへり
乎召呼　乎類記上・阿那迩夜志愛袁登古袁　又夜幣賀岐都久流曽能夜幣
乎類賀岐袁　万二・よるきゝりゝふけゝゐるを　三七・春日を
かをゝけ山の　十一・をとめらを神ふる山の　用云をゑゝるハ
二十・を色らみくさに京ハきゐゝを　又十・ゐゝぎ次をや　十
五・いのちをゝ　十一・いゐをゝるもゝゐゐ　又十・舟ゝをせを
とよぐへども　こハ俗語ゐ渡セヨイといふゝ同じ
以上の奈恵乎　御乎ゝゝゐゐ通ひて召呼感動云に属ゝり
刺客傳乃於邑曰其是吾景與嗟乎嚴仲子知吾景
哭泣感動云　哭泣ハ大氐喉音三行の音を引て唱ゆるゝと　小說ゐも哭々
咽々ゝゝ咽々ハ泣くゝる意なり

與〻哭泣　與〻與〻與〻類六帖君ゐより　よゝ　よゝ　よゝ　とよゝ　とぬを
そをゝく　よゝ　よゝ　よゝ　と
ふゝ　俗語コリヤヤカマシイの類　陽貨女奸
禁止感動云　こハ人を制ゝ禁ゝ止ゝ云ゝ　則爲之ゐぐゝも　この禁止のさん
莫賀禁止　阿奈加万類　拾玉集　おゐるゐゐゐゐ人を伝えてわらふをあゐゐゐ
とせいをれど　古訓皆あゐゐがゐ　ゐも一時
怨怒感動云　こハいゐゐゐゐ　俗語ヤオレウヌ　留侯象漢王輟食吐哺罵
曰豎儒幾敗而公事　孟子惡是何言也
意礼怨怒　伊賀意礼類　記中伊賀此二字以音所作仕奉於大殿内者意礼此二
字以音先入明白其將爲仕奉之狀
奮厲感動云　こハゝゝ　いざゝゝ　いざゝゝ
之哉沽之哉我待賈者也
佐々勸厲　不飽食佐々　記中神功皇后ゝ欲阿佐受袁勢佐々
伊邪勸厲　伊邪子等　記中應神御製伊邪古枳毋　ぬびるつゝにひるつゝる
古春　いざゝゝ　ゐも春ゐん　同東欲いざゝ云ゝを
恐怖感動云　こハおそゝゝ　ゐゐあゐゐゐ　語ヤ　すゝ色ゝ　俗語ヤレコワヤ　東
阿也恐怖　阿也尓畏類　万葉ゐゐゐ

教諭感動云こハ切ろ〳〵ぞをそへてらふ　そんぞ　これぞ　のゝぐひゝ
子張噫云游過矣　大禹謨益曰吁戒哉

叙教諭

叙類　古雅大りゝハ月を引もりでじ　こんぞこの　万十七月日よみ
つゝ妹おつゝんぞ　十八ぢんあゝさハ　ぢりゝんぞ　後
撰たゆふがゝとハ　ぢふらんやぞ　古意ゆさのゝゆさふ物ぢふ
ころぞ　同秋名ふりぞくをれるぞうぞ　拾遺恋五ぞう

通用感動云

加類　古美ゑ　ゑもぬゝる美の柿　加毛類　古雅　ゑくれ引紀ゑ
ゑこハうなのをゝ　加毛　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
又人のたるぐく我おひ　ゑうも　万三长ゝハらぬゑれバかゝ
きろうも

毛類　古意いや毛ざうる　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
づく　ら　ゝ　五ゑうゝ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ

奈類　かゝ　ゑ　つゝし　ゑ　ちぎりき　ゑ　ゑすれど　ゑ　か　ゑ
ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
うべ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
千載おもゝみゑさぞ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ　ゑ
ゑ

り里あり。使令疑問の二法ハ。上巻活用云の條ふ見るべたり。
ふをはといふことハ。過去格のてと。所格のを。とこの能格のと。
とをとりあハせていへるふて。を爲て六格三格の總名ゝとかえ
てさ四たぎれし。

波受伴云格　記上伊毛波和須礼士よ
妹波類　白波類　風俗かひが赤に之呂文
波ゆきさゝや受虚伴云格。
此波類　記上そらみつ大和ぎも許礼ハ
ふさハぞ受代名云格。　晴波類　後撰おきでゐりけるを
すべて能格の伴云を受るまいゝなこれ類ゝ。妹叙白叙此叙晴叙
妹許曽白許曽此許曽晴許曽ものぞ。
省波格
藤浪類　古友我宿の池れふぢなみ四咲又ハ里山部公四いつゝき
みゝん。をらハゝを添て少く之の格ゝ。
重波格
里波人波類　古秋さ咲ハあ咲て〈ハふ里ゐ〉やぞゐ咲やこの二
つのハの結び辞ハ。接續云と連伴云とをて性ぞゐ。
波結辞格
久類　古書なくする了忘ハ万さ　須賀徹ス漢籍よみ三忘ハ雖ヲ以テ
受類　古忘ゐつ〉ふひとめゐ〉　慈類　詞忘あ紀やまれ志ゐづハ
らと　ハあ〉む　くあ〉
都類　古忘ゐハそて〉つ紀をぞる
もゐ〉さし。　畢奴類　古夷ちりうみ花よ忘ハ
おどひぬ

布類　金塊ぶあさゆれさゆハひゝ　武類　いせ物語いりかほきを
ひさ〉そふ　での四ゆハおわ〉このむ
咔類　古離別者ゆおに〉ハ〉ぞ〉ぬん　新古忘ハなくとを霞
ハをを　きん　同秋行たの忘ハあみぢを〉ん
由類　拾遺かきゝの柳を忘ハあ　留類　後撰すぶ三芳陸のやまハ
よゐあ　ゆきあ義
利類　古洲潜人よあをん月れみき夜ハ思ひかきてもまを〉里史
よ紀やけをり　金楽苗代の忘ハいを井ゆよゝをり
幾類　後撰匂ひあゝぬよ忘ハ　現志類　後撰秋雪れを〉ハう
うかりき　き〉
万志類　古春忘る北紀ハのどき　良志類　六帖山のかみぢをいま
う〉ず〉　ハちるらし
加奈類　古雜かゝくも忘ハ老又　都々類　古夷ち〉の〉山ち雪ハ
ゐる　ゐる　ふり　つ〉
後拾よそたぐふてハやま志なの里こいやま〉といふをいひゝ
き〉〉ん。　新古牧うきさるハおわを〉のさとこハおわ〉といふ
ふをいひゝきさるハ。　やと菅原万下をとめらが紀ゝぎのうへ
よふる雪ハ芸のまがめ〉にいづれたがへり　うつゆむら多君〉
よよそにゐるハよよ多里芸らを変格とも義ハひがらとゝハの
う里をを〉と結びる正格ゝ。

○語學新書下巻能主格

還上波格　我身波類　古離別下巻のこゝろやらこゝん志ら山のゆきさるべくもあらぬ我身ハ　又添てなくさのハ分還るも同じ。

波属合助辞　尓波類　後撰汝のみそう河とそ　登波類　古哀傷山のうすゝ河の

ぎふハ　せよ。使令法し。　りんとハ　見よ同上。

平波類　古離別わかれをハ山の　互波類　古恋孫もをでよるをあ

さくゝにはらきてん　てハけをハてハの

ハ色いろそてゆをそるぐのそ〻めめくゝうゑ〻ゆ法てよむべし。

さてすべて合助辞ハ、かゝく接続云にある格し。

重合助辞格　花乎波　君乎波類　古離別秋萩の花をゝ面にぬゝせどもきみをハ

合助辞省波　尓類　仮名葉吹ぐれ　登類　後撰我袖と秋の初紫と

の字ハけゝるゝ袖なり。　いゞ色おされり。

省結辞波格　梅苍笠類　古雑ぬふてふ笠ハ梅のそながさ　すべてかくゝ見法

びをゝ省るハ、記下。のゆるいへむゝ　つまがいへのあゝり

　　此ゝいの句ゝ奈良　七重　七堂ゞらん八重ゞゝ法。

能主相重格　波與叙重　古秋殺きく時ぞ秋ハ　波與古曽重　古哀電とのこゝ雨

すべて才一能格ハ軽く、才二才三能格ハ重し。されば軽重ハ重き

さバ重きゝとれ格ゝ云ゝゝ。

能主失格　波誤作叙　萱方秋の秋を行ゝゝ　ゝびぬといひゝるそ抱見ふ人の

波結辞失格　受誤作奴　風雅なかざりに人ハそゝゝんむづさに見ふんのたく

ハのこさぬ

慈誤作受　拾貴茅ゞゝれかきすゝゝハぬるくともむをびゝゝハ

今もゝゝそゝぞ

都誤作久　苗新古かきつくるんそこゝる法るれどそても君ゞん

人やあるとて　こハ添てなくこのハ分上へ還るし。

過幾誤作已　志風雅おゝゝざしふりきゝゝみハうつりそつゝく

みて人のそえゝるゝりのを新拾ゝも同じ誤見あり。

毛受仮云格　青茅毛類　記下。山がさゝまゝる阿表那毋きびくゝゝ　ゝ　ゝつ

見バ多ぬゝくゝあるゝ。　ハ接続云ゝゝる辞し。

省毛格　岩乃加計道類　古雑ゝにふればうさゝそきれみゝゝ　岩の

重毛格　去年毛今年毛類　六帖をゝゝ　こそ　あゝゝ　をゝゝ　ひゝ

毛結辞格　久類　古秋山の木ゝ紅葉　いろゝ　受類　古秋ちそやぬる初雁き

ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ　ゝゝゝ

慈類　新後拾おゝぎきゝぬゝゝみ　都新古ながくゝゝはばゝゝつ

もあゝゝ　者ゝゝゝ

畢奴　古雑　ゐれて　久〜く　布　続ぐ　こよひ　雲の月
みりぬ　ひりそふ

咔類　古秋　ゑ〜くハ　ゐて　ゐ志の　由類　金紫　くるれば　月の影と
ぐん　同意　ゐ　孫あてん　ゐ　ゐんゆ

曲　後撰　夕ぐれハ　松　ゐか〜　利　古裏　と〜ゐれる　人　ゐ
ゐ志〜ゐれ　ゐまちゐり

過　類　拾遺　たまくらの　そ　紀ゐ　現志類　古冬　ゑやどハ　雲ふり
ゐ　ゐ　ゐむりう　紀　紀てゐ　ゐあ

万志類　古意　ゑんぐハ　ゑ〜紀こ　良志　新古　ゐがゐみ　ゐこゐ
と　ゐ　ゐ〜ゐ〜ゐ〜　ゐとくら〜　ゐとくら〜

加奈　古裏　うくひをだす　ゐゐ　都々類　古意　ゐゐ　ゐみぐ　ゐゐ　ゐり
うびゐあるゐ　そゐぢつ〜

金紫　志の　ぶれど　ゐをぎされ　ゐまわ　秘こハ　ゐ〜　とらふ　いひ
うをこ　ゐ　ゐ　風雅　いろゐへぬ　松　ゐ　ゐわ　ゐり　古意　ゐ　ゐ　ゐ〜ら

ゐ　ゐ　ゐ　

此也字用者実。又曰、者舉其說於前也釋其意於後以應之。後句有知和等字亦同。按者字亦釋其意於後已。

亦字法　八佾、邦君樹塞門、管氏亦樹塞門。

合助字法　學而、孝弟也者其爲仁之本與是疑問法。

省字法　爲政、君子不器。

子罕、三軍可奪帥也匹夫不可奪志也

才二能主格　そのやうれかゝやをゝ二能主格とは。結辭くをうぬふるんる

る〜　現き現〜き　る〜り　ら〜　んらんんんんはんは同じ。

るるるるめるきるるるつるめるるるひるゆるはるは

同じ。みて〜はるしは同じ。きのはいきゝ他は是すて。

ゝりありゝるるゝもむもぶゝ。きゝその結辭のトゝうるを添て

りあすあり。但これも添て学くされうゝやあり。

叙受仆云格　神叙類　古突、妻日聖の名菜つゝ。弟代をいゝふ。ハ秋ぞ志る

らん　ぞハ疑問法、疑問形容云。教諭感動云も渉る。

省叙格　限類　新古、人ようりゝ公のかぎり　露類　万十、ころりでさむく雪ソ

おきゝふる。ば露おきゝふる

る。他の云に考るにいづまも雪ぞおきにゝるとある。ぞ露おきゝふる

らこゝぞを添てまく立の格なれらとを志るべし。

重叙格　雁叙不足叙類　古羇旅、小へゆく所ぞなくなるは是てら〜。ば、ハた

らぞぞうへる所らある。

叙結辭格　久方　古云、君が来ぬ数ハ玉ぞか　須類　古云、かろゝなる涙ぞ独ま

ぞうく　むハまず

都類　後撰、秋の七日の夕を　不如　古責人の心ぞ風ふかぬ

ぞまつ　ぞうへぬ

布引　拾遺、吳竹ゝうゝ〜ゝ〜　武類　古雜、すとの心を志る人ぞ

ぞ云ふつる　くむ

吽類　拾遺、うゝ云ふきいそのゝ　名数　古雜、つくち名のこれすと

ぞとに考ちぞよる

ぞ〜類　古歌、ひゝ月とぐめぞ月ぞふかる　同、ふかき思ひいわ

ぞまされる　又六帖、ぬぎりるハ物こそ立るゝ

現幾　古実、のゝうゝふくちるぞ　現志幾　古秋、むしの声きけば

めでたき　ぞうなしき

過志類　後撰、系ぞよるべ名き　万志類　古春、ふこぞハ所ぞハ

ぞちはし　雪とぞふりふす

良志類　古名、ふるゆよハうつぞけぬ〜し

拾遺、わゝうれバ心をのこぞつゝ　桐、こハつくゝのいひゝを

新古、えぞやま志ろの井ゆの志ゝみこハやまぬのいひゝを。

叙屬合助辭　波叙類　万十二、ロ月ぞこぞある　毛叙　後撰、よそへてあやなう

六ゝ、我ぞまりる　ぞまりる　ぞらみすぞる　万一ゝ、

[illegible]をぞ多ゆれざるみち川藻[illegible]をかるれバを[illegible]ゆる　同長よき
くをぞるき　十一、立てかもひみてをぞゆるみ　古妻まゝ[illegible]ゆ越
尓叙歌　古雑歌のうち紀時のよみ　登叙歌上ゴ見ゆ
乎叙歌　拾遺そらめ河ぞ君ハミ　豆叙歌　土左日記、万ハ十ゴ字
ふふきてぞあそぶ
叙波歌　古離別、へる山なるぞ　叙毛歌　万十、義のそなそれいま
ささうぐ[illegible]る
叙毛類　古物名、ちりとはきけどもるよ[illegible]め[illegible]なき　[illegible]ちりれ
[illegible]き

合助辞省叙

尓類　後撰、この夫ぞと[illegible]和歌て　千載、祝さへ浪の下に　新後
[illegible]くちぬる　拾遺、ゆ乎ひとり[illegible]ゆ[illegible]衣をぞ[illegible]ぬる　後拾、ちきの叙[illegible]愛てかゝ
拾いそぐ渡り[illegible]歌をかゝ[illegible]つる　万九、ぬゝまゞひれる
ア[illegible]　源茂ぞうぬをぞえの擬[illegible]ぬゝまゞひれる
に[illegible]より[illegible]る　十九、[illegible]ちる時[illegible]きなきとよむる　[illegible]歌、ゆり
とハ[illegible]ゆ[illegible]ちづ[illegible]なき　風雅、秋よりさ紀[illegible]ゆ[illegible]てもぐ[illegible]
き[illegible]あ[illegible]ありそる[illegible]格、さうに詞豆の結よこ引らを変
格、すこハてふをはふ調ちと〳〵変格るうこハいづ引るこる語
りの々に歌島のさ万りて、寄りの下にうるゆよるといふ辞をか
へて文くさんとて源氏茂ぞうぬのちを引て證をとり、されども

たゝ〳〵るるオ二能格の辞をもて、別よりあゝどを添てきゝ
んらといゝ〳〵、すべてらに歌島のさるきハあゝざるべそ
れバよりゞをかへて文くさともさゞめゞもこハ和ぞとりよ
合助辞のぞをおにこめゝるそのるを歌をや、
登類後撰、夷来ヨうり[illegible]と[illegible]かどろうれぬる　拾遺、ぞ[illegible]き孰と
登類[illegible]恋をもりぬる　後拾、春のまきうぬ歌べと[illegible]ま[illegible]つる
千載、和紫を海の物と[illegible]ゆ[illegible]ゆ[illegible]つる　後拾、ふ紀ひうれと[illegible]かま
ハざり[illegible]る　生らミる変格ふあゝぐ、又風雅、うゝみんとそれそ
そのゆ[illegible]と[illegible]なき　生らまゝてふをそふ調ふあゝぐ、但万十一、色づゝ紀君をそ
んとそひゞりものゆ弓とる方のすゆきかきつれこの二句六帖ふ
ハ、君ぞんとこそぞあり、こハ嫌よこそとぞあるべき、
乎類後撰、ぞ[illegible]ぞ[illegible]ぬる　千載、経はつゝ[illegible]
豆類千載ぞまこひて[illegible]ぞ[illegible]ぬる　[illegible]名まれ流を[illegible]たづきらびぬる
色を[illegible]て[illegible]とが思ふ人ハ言づきをぬ　万十、君ぞ名うけて
[illegible]ゆを移ゝ[illegible]る　ふくるハナカスルゝ、千載まゆの法ふて[illegible]
ゝふハくれぬる　後撰、受れうちふて[illegible]さを[illegible]ぞもなき
波毛類詞花、志りゝ弱き[illegible]ハ[illegible]ぬ　万十九、法うへまり
[illegible]き[illegible]ハ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

傳類 拾遺すいふ考を[で]図妻を書めん　新古かりひきよう〜[で]図
常をうと[ゐる]　續拾あうつ紀ち〜[で]図くをこひ[ゐる]
左閉ぢ係をとめ さへつるるの考さへ[図]うそ〜[図]　玉葉よ枝に
琴く多きく[図]そうあき　古意やどる厚さへ[図]ぬる〜影
[ゐる]　新古ぬる松さへ[図]峯にさび志き生らそるさへ[図]の下ふそ
を添てすくをのう〜ほそ　御りに叶彩古そる ちるどをみぎり
まてふをはふ恫考ともるハ　ゐりにぞやけ古ハ新古今の中の ち
くづそといふさどいありて つ引くまみも上の日のひろきるそん
とやうにいへり　そハ向れさざまこ枝めゐ　ゐどうてまをはふ
調とハさぶむ屋りゐん

万傳類 後拾乙ふ[まで]図ろろ　乃美類 玉葉ことが立ぬ引ーせの
つ〜[る]　こ[図]こひ〜き

婆加利類 新古 ひそんとぞうと[図]りひてやそぬか

省合助辞格 杜言葉類 金葉 ちら〜そて[ゐる]

省結辞 叙格 此類 古雅 神之序 志ぐれ ふりかゝる ちの紫 此名 ちゐ 多れふ
るらと[ぞ]これ[ナル]

叙結軽変格 現幾軽 爲現 志類 後撰 ちるめうるかこ[ぞ]あらこまる[ゐ]ときく〜と
ハ 接續 云こみよりて 軽〜ちる

能主失格 叙不調類 ハ帖 春ハ ゆ 東 ゆ よりそ ゐ 多れ ち とのそつてよむさ
底 ま や 秋ハ や ど ま ま る 清正集 去れ よ の も 流 り ま れ る 山川ぞ限の
ち う く ぞ そ わ ど つ る 小 の 川 清正集 去れ よ の も 流 り ま れ る 山川ぞ限の
ろとそそそゆ　万二十　袖 も 志 ろ〜に な ま り ぞ え え 侯 ま ら ハ そ な
ぞ り と く の ハ ざ る ら く 先 達 の 説 れ ぞ と し　後 侯 ぞ 集 さ ら〜
ぞ ち ち よ あ ち り に ち る こ と の ち 紀 を[ぞ]ま ち か ゐ を[ゐ]ち う ま こ
ハ一つの格 ま や

乃受体 乃格 山乃類 古美 あ ゆ 坂の関をや妻 ま こ そ つ〜 ん か と た れ[山の]け さ
すべての ま 能主格 ち る と 所生格 ち る ま〜同
等形容 ち ち る と 獨 立代名 ち る る と の 差別 あ り 体 ち と 用 ち と の
間 ま 紀 の ハ 能主格 に 学 の ま く 山 の ち す 名 る ま と の ぐ と し ま と
ま と ひ る を 屋 ぐ て ち る を ち ま れ て 用 ち と で 及 ぶ ハ 能主格 れ の
ち 古 友 な の の 後 の ふ ま り と ま れ バ ま ち 紀 の 志 の く
め こ ハ め ち る ち で さ 及 ぐ り、 さ て の ち〜 ま を ハ[ち り]ち り
ま と ま 坂 び や〜[体] 云 あ て 見 佐 ぶ 格 ん

乃結辞格 久 乾 古 を か く ま る え ぐ に ち く　都類 續拾 な ち〜 ま〜 ぐ と の[か も]
ひ 紀 の[ま く]　ち ま ち ち と

不奴類 古友 そ 楚 う　布類 千載 ま を い る 袖 ま つ ゆ の[ぬ]
の[う り〜]　あ〜 ぬ う 楚　お 紀 そ ゆ

呼類古歌抵必げとよまれをとゞめてわうん紙のゆきのまふ
くゝ帝くゝくゝ[illegible]

留類古秋山のみ[illegible]きのかをバ　るゝ類千載さ咲こゝろ恵
のいろある
うゝ[illegible]

現幾類古歌いかだれそよとい　現志類後撰ちりぬる花の志
ふ人のなき　ひて志つき

良志類建保四年合ゝうゝ人　計利類新古あゝてるいつきのか
のかをしおゝら　計利ゝとぶきゆ

奈利類千載志ゞゝ[illegible]をまか　加奈類新古れるゝのとすら
のよく　るゝ[illegible]記ヒうれゝ

まゝ古歌あまゞまゝ[illegible]ひとの[illegible]ゆく[illegible]こゝのゝ[illegible]
ゝをのゝ[illegible]

左也計左類古秋めゆハゝて志の　さやきゝ　後撰よのみ志
かくて吟

ゝゝ[illegible]ゝ　ゝゝ[illegible]ハの[illegible]を誤ゝ類ゝゝ[illegible]ハ伴云ふて[illegible]
る格ゝ　まゝ万三ふゝの[illegible]ゝ　十いまゞま

ゝまバよ　ゝゝ[illegible]ゝ　ゝゝ[illegible]ゝ　ゝゝ[illegible]
ハ形容云ゝ[illegible]バ伴云ふて[illegible]ゝ　ゝゝ[illegible]ゝ

還上乃格

人心乃類古歌吹よ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　ゝゝ[illegible]ゝ　ゝゝ[illegible]ゝ
のゝゝろの　まゝ新古やどる[illegible]の袖のまゞき[illegible]

どゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝれらゝゝ疑問法ゝ　ゝゝ古ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
人の[illegible]ゝ[illegible]ゝ形容ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

乃結轉変格奈留轉爲奈良婆類古雑あのうへようかべる紙の君ゝバあゝ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

奴る軽爲奴礼婆類古歌君ゝる風の床ゝみちゝゝ[illegible]ゝバ[illegible]ゝ[illegible]ゝ
接續云ふ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

能主相重格乃與許曽重　後撰ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

賀結轉変格　現志幾轉爲志尋類　後撰秋の岡はい祢そゑ　こと物うけしうバ　品
ひさ　げうきゝぎ　きゝ　例の接續云
也受伊云格　我也類　古意老の乃ゆゑ　ゆゑ　且　浅也類　拾遺　あさゝゝ　ふゝそ
重也格　我也人也類　古意受ゆゑ　ゆゑ　ゆゑ　

乎也類上ニ見ユ。

互也類上ニ見ユ。

重合助辞格吹風尓也波君尓也波類大和地方ニ行キ発ル時ニ用ヰル言葉ニ君ハ行ラヌ

去年登也今年登也類古春手ケルウチニ来ル人ハ一ヒトヲトコ

ぞとやいそん　こそ〜とやいそん

合助辞ニハあゝねども　もゝやもの類ふくもあり。

きやのきの　きや　万ニとゝ

ぬ　山ゐもむ人　きやみゆ

にし　ぬぐる　ぬや　ぬきやぬ　紀も秋のゆゝ　ぬ類

ゆ　古セぞうく　ぬきの類ぬべき花のゑみ　きや　ゆやと疑ふきの　きや

も古意風ふきで浪うつ岸ハ　ゆのきの　きや　後撰

まきらゝゆゝてぞうりハ　ゆやハ　ゆやと歌くきの　れや　後撰

撰古中ハうゑ紀ものゆ　れや　新古ゆゝれバ小田ハ　ますらをいと

ぬゆ　きや　もすし　ぎらハ先達の説のごとし。さきど畢竟疑問法と

感動ニとの二つゆハ　ざるも　又ゝやめやハ大方感動ニ

省結辞也格春初音類古春うち出る浪　ナラシ　奥のとつ岸　ナラシ　好ム者つきと

ぬ　ぬ　ゆ　まろが身のうさ　ナラシ　伊セ物語こん　やこの

天の羽衣　ナラン　千五百まこん　ゆ　ぬぎきゆ　ぬ　ぬ　ナラン

ゆとこそらくな　ナラン　を。海てまくさん

也結転変格伊豆国転為伊豆類新千。うちつきゆ見ひ　ゆ　いつ　と古さとの。くハ

きぶいと　ゆ　ゆ　いま　ゆ　接続云ヨリテ転ジタル。　きと新古人ニ

そまて。こハ接続云のとゆ　ゆ　と結辞をふくきを後格ニ。

也結辞失格良武誤作都々續後撰冬来ぬ　ゆ　弟ニ屋ぞさハ去

ありきさう

無結辞者万二十かしこ　ゆやみこと　ゆゝ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

いむ〜きをいむ　いむ　ゆ　ゆ

也属奈武格人奈武類六帖つれくゆ　ふなゆう後のなぐるゆん人　ゆん　ゆれをお

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

る　ぶ　ハ　ゆ　の属まして結びも　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

奈武合助辞紀奈武格

土左日記にあるものハとぢぞをん来ろ生ハそぢ

ぞ来ろふやあゝんとふさ

外奈武紀類のぞろふ日記ありれふをんぞあろこハありれふぞ

あるふやあゝんとりあさ。この還るゐのうく

をそのこれゐんとりふハらゐゝゝびちの文例みてもれるへ。

まこやらんとりふ辞ニヤアランの結まうこるあて。けをんく

ワ。千五百年ぞ。ぞんがくん本葉がれうれるこるをぞやらん

ぢづれをを。

加受代云格

今日加類万一ゝ

らびけりをつけてりふ格ゝ其例ハ　後撰いゐまでのたゝ形さ

以の云れ葉ゐ引の秋れ風をまゝゝん。　拾遺いをみがさ例ハ

つゝきつゝうゝバうゝみがてゝふ来てを見より。　ゐ載をむ

あをゐゐゝとハゝんゐゐ　姉川るを。松や例ゐ　ゐ花ゐびかき

きんこの姉川るをるそをるハやゝくゐをゝ市ゐゐり。結きどもやハ上

の松をゐをゐれハれ。ゐれをゐけたり。

重也與加格

此也何加類千載こをやゆ紀ゐびを　うゝ　えゐをさをゐひと

クでもをぬ後きゐ　まゝ万十二。をゐ　ゐ　ゐぞ

れらん　ゐも　古文ゐゐ　ゐとゐをバゐをぬるゐれよをあゐび

とゐ　ゐゝ山　紀云ゐ。　まゝ万九。ゐの洲れぬぎつをゐれバをを

ゐまちりみだをまてゐる云れ川どゐ来。この二ツれゐもハとゝのひ

ぐゝゝゝん。

省加格

奈土類狭云ゐど因ふゐろまゐ　何尓類古雑ゐれゝきを因ゐめゝ

すべてゐどゐ何ふゐゐどのゐハそびきてよむ例多しこれハゐ

ゐびゐをそへてゆくさゐ。但鏡に来この格をすべて何のか

ゝをとゐ引張まるゐとゆ為ゐわくハゝくさとを屋。　古為あ

ハぞハ何を為れ法ふをん　こハゐのゐゝをゐ。　風雅をゐへぬ松

をゐまゐゐハをのゐゝりゐ。　古為ゐゐをゐ　ゐ秋たゐぬ

ぞもかく。源の川ゐ源てをゆゐんハぞのゐゝをゐ。

ぎゐけゝ為ぞゐ　後撰ぞらふぞゐりの

霊為ゐゐ為ゐハやのゐゝりゐ。けゐるを外ゐゐりゐるハ誤

をゐ。ゐ野ゐゐるとあゐふゐゐびし。むの結ゐ。芳為紫下をと

とゐらゐひゐげの上ゐふる雪ハ花のまゐみゐいづをゐゐをりとさゐ為ゐるハたゐ

とある云をゐて。やのゐをびのゐゐをりとりとふハ。上の

へるあゐつらひゐ。芳為方紫ゐるゐびゐへりとりふハ。上の

ふる雪ハのひをびゐていゐゐとりふ詞のひをびふハあゝゐ

るゐすべて何誰ゐゐハ。疑問代名云みて。助辞ふハあゝゐるゐ。

加結辞格

久方後撰ゐを久方とうきゐ　ゐるゐふゐとてぬ　ゐ為新勅たの発ゐかき一ゐ

ヲ、類千載小校[う]天[ぬ]ヲ千載　咋類古意々ぬと[う]いとん意の
よくなり。　　たゞきに。
奈武形乃八々めゝるゑまちり　良武形新古今うさく[ら]ん山ゞ
[う]ゑ[ま]ん　　きのそ形。
加属合助辞尓加類乃一よひゐ意てゆゝるゑゆゝなどりゐう[き]をゆゞき妹
がいろりせ[ま]ん
登加形乃三海士とゝろゝんた　乎加形古物名法をう[ま]のきゆ
びゆゝるゝ[ま]ん　　とんつゝん
旦加類新古いりゑきとてう意　婆加類千載いゝゐうてバう云
しめほゝう[ら]ん　　ゝ意のう〳〵もる
加波形古物名いくそたびヒゞ　加毛形古意ひよキ
うしとかそ見あ　　うゑ候ゐわ
加也類拾遺ゑゐとうやくゑのの
もゞとハ見わゝで
合助辞省加登類古意ゑれそよと因そなさ　登旦類後撰いづくとて因たづ
[ま]ちん　　きつゝん
之字法　學而夫子之求之也其諸異乎人之求之與按之字是第
二能格與我字應接也字是第一能格而章句係疑問法
故將與字押之　雍也赤之適齊也乘肥馬衣輕裘按之
字與適字應接也字與衣字應接

與字法　泰伯君子人與君子人也
矣字法　詩雄雉展矣君子　柳宗元曰矣決辞也
夫字法　子罕近者如斯夫不舍晝夜按者字是第一能格疑問法
故將夫字押之夫字是第二能格乃與不字應接也
孰字法　先進赤也爲之小孰能爲之大

第三能主格　こそのゆゝ[ま]をゆゝ三結を格とゝ　結辞けせて結へめ[ま]現き意
志過志のう[ら]ゝ[ま]れゝれ[ま]れゝれ[ま]れゝれ

重許曽格　深許曽色尓許曽類後拾　みうさこそ　蓑の衣ハおもゝ〜め後ハかあ
ず　いろにこそ　志め　わゝと万六この山れつきバのゝこそこの河のたゝバのゝこそ
ころもむすばれあゝ紅こハのゝこそを重たり　志きれかゝるやど

許曽結辞格　計れる名変るをふちを潜るる　世れ堀川るを　あゝろのおくに
をみゝこそき　志ぎりこそ　ま　を

互類　新古　ゆるゝだきるも　神類　古春　いろこそ　ねゝ　ゆ
こそ　とて　ハかゝる

閉れ後撰　わつれバ　神こそ　おゝ　兒れ後撰　ゑ菜ハつおで　重と
ゝ　古意　ゆ　近のゝ　そつゝ

ゝみとて　こ拙　面白　ゑめ　万十　此類　後撰　ゆゝ　ぎきの　枝ま
こ　俞早ハかヒケメふハ非じゝ　神類　こそあれ　古意名ゆ　了物

君を結ゝ　ゝつれ　又後のゝ　現れ　れ　仁徳紀　ゆゝ　了そ　二重
こそ　ゆ　ゆがゝれ　れ　を　よき　天智紀　ゆ　こ

拙ハ結べ　志ま　ま　き　ハヨキし　一万十一　ゆくま　今　了拙　志ハ　ゝ　面
ゆき　月十二　むゝ　ゝろま　れめゝ　ゆゝ　ゝバ　了そ　歌のきき　ゆう

ゝ　ゝ　ゝ　べき　又十一　かのゝ　書　こ拙　とこめゝ　ゝ　志きかゝ　志き
とゝ結ゝ　又十四　ゆゝ　ゝ　拙そ　志も　駿河紀　古止　古曽　余之　拙

過れ類　後撰　時　ゝ　ま　ゝ　重　ゝ　志　ゝ　駿　拾遺　人　志　ま　ぜ　こそ　志
ゝ　ゝ　ゝ　

尓許曾類 古美あぐりと名は　登許曾類 上ゐるゆ
こそ〳〵それ
乎許曾類 上ゐるゆ　尼許曾類 上ゐるゆ

すべて合助辞といふハ能格のはもぞのやうこ接と所格ゆのみをとり上及過去格のてばあぐ〳〵意なりあるものと心うべし

合助辞省許曾 志毛類 万十八 毛志 後拾をみるべしかわうる聖べるゆ〳〵 拾遺 時〳〵あれ 秋志も

志うろめぐくもひやうる。
くのヒクろれバ。をらくるこそを伝て書くをのうくヒこ

尓類 万十七 あぐ ゆいのちもたが者めゆれこのゆのアるもコ
ゆくをう。ゆくこう。古意君といへバそゆれんぞゆれ

毛ハミモコソアレ ミズモコソアレ のことはゆゆくと一つ此格と
志ゐ

省結辞許曾 間類 万十一 きのふ えてゆゆこ
そ ひ ぐ

故記六帖 よりやそこ接ハむち
さ紀のゆ

耳許曾類 古意とそゆ分ひらん
ミコソ

人目多美許曾類 万十一 せどうう
ヒトメオホミコソアハネ

ハ見へど くめかるゆこそ 逢未 吹風ゆ あゝバ志ぐく意べきもの
河

許曾結軽変祢軽爲受類 千載 そがこそ 寝の床ゆ〳〵めこそ 製ゆ〳〵こと
のうつ〳〵 ありせバ こハ接続云よりて軽ぐらるゆ

祢軽爲波也記 千載よそくゆとそれゆるうゆ君ゆこそ ゆ せゆや
とゆ 神のちづくを同上

閉軽爲布類 續古志ゆこそ人のゆもうつろゆをそゆ
山ざ〳〵うゆ こハ所役格よりて軽ぐらるゆ

金塔いすゝへハ月をのゝこそ まがめ ゆ 五社百首 受ゆこそ
都のこともゆるべきを 所格ゆて下につぐ

能主失格

許曾不調類 後撰 くをかりゆうゆ

許曾結失格 波誤作也 良免誤作良武 類 子ゆ 石義 友ちつる加 義の行 れ みそ
こそ 祢 うて〳〵 秋風の下 義

ゆこ ゆ 逢ゆハ受ゆ ゆこ接 ゆ〳〵ひまて うつ〳〵 ともなきこよひ
ゆりゆもこ こハ接続云のてゆて結びハ既ゆ轉じたもバ とゆ句を

すべて帝尓乎波のこと 格ゆたがへり

ふゆゆて誠ゆ格ゆそづもゆるハ ゆ〳〵もくゆきこと 古事記
と書紀とゆのまゆ長短合せて百八十ゆそ 万葉集二十巻四子

五百ゆそ古今集よりこゆ 学〳〵の撰集集ゆ 法華子り記
のゆゆどの中にて其格を失へるハ二十ゆ首ゆハ過ぎ 歟し

○所生格（ヤマセル）才二　所生格ハ、体云と体云との中間ニある「の」ガ、諸体云詞辞をぬけバ、所生の格となる。能格の條ニ云へるがごとく、所といふ義ハ、能格よりものをうるゝ、ようなりゆゑ、へバ拾遺ニ「ものハ愛るの」て名」とあるハ、ものゝ主となりて愛をなして変を生ぜしむるさまなるがごとし。ものゝ主すべて所格の実体云、虚体云、代名云、連体云を更ニすハ能格と同じ。

乃受体云格　白玉之君類　記上、あうぎまハをさへひろれど斯良多麻能君ガよそひしあめとくあゝきり。

事乃格　一能格五生格類　新古今、ながきの「より」のくち紫の「雲」のうへよりおちくる月のうぎは「を」をさこのあの「りゞ」六つあるが中に上五つハ所生ハ「の」、下一つハ能主の「ハ」、能主ハ結辞あり所生ハ結辞なし。

三生格　万十三、「ヨロ」「ヨロ」出「の」よろゝき山「の」いでとち「の」くそゝ、比山ぞ比下ハ教諭感動云なり。

ゝと万六、ふつゝじ「の」ちらゝ咲ゑん時ハ、色ハ体云ヨリ体云を生じたるふて出ニ　十八、めゝるれきゐて船ゝくゝ咲たるされどきゝ「の」うゝあゝき。二十、山ひれバ「の」とゝ、くゝ川ひれバ「の」さやけくゝ色ハ体云を生じたるゝ。四、わがをこがゆき「の」まゐく。又、大ぶきをこぎ「の」をゝみゝ、こゝ色ハ体云より形容云を生じたるゝ。

隣語生語格　宇治川之早網代者類　後拾、宇治川「の」さやく河ぢろハ、みうり名ヨ。

乃受用云格　將行之類　古云、君やこむとれやゆうん「の」いざよひまゝ木ハ板戸もさゝびぬ弥ゝ。

乃属賀格　元輔之後類　元輔ガ「元輔ガ」ちゝ、ぢんやハをる、歌ガ巻物ガ「え法師ガ」系甲斐ガ「ね」ハ、

重賀格　爲君我衣手類　古春、君ガ「ため」ガ「ヨロモデ」ヨロ雲ハふりつゝ、ちるの「ヨロ」ハ、ものゝ「ヨロ」ハ所生ニ。

ゝと古哀傷ぬる「ガ」うちにとるをのゝやハ受といへんこハ連体云をうきをうゝ。

顔淵浸潤之譖膚受之愬　又、虎豹之鞟猶犬羊之鞟　滑稽傳以楚国堂々之大、何求不得　信陵君傳臣之客有能探得趙王陰事者　又孟子、庚公之斯、尹公之他、左氏、公之推燭之武、此之字非名也昌属所生格猶謂紀之貫之源之義、朱註之語助也是

ゝと盧允武が説ゝ之指也、大成之殿指此殿爲大成殿也、聖人之言指此言爲聖人言也、といへるハ所生指示云のうゝとれ釈とも。

○所與格第三　所與格ハ仲云の下につきていふ　ニ　と　への類なり。是らの助辞あれバ其上ハ仲云々る所与格となる類なり。此格恋詩ハ二つに分きて、爲声と依声とに分きて、おもに爲声なるとハ、依声なるハ指示云々。　爲ハ代名の去のさま

ると、形容云々るとあり。これハ爲声のうさ、是らの詞を一

是よりみくるハ、古春、是れをハうつり　ニ　是ハ我身

よりふるながめをハ　ニ　是の詞ハ　ニ　是れ

ふくりふてふせバ　ニ　是ハ　ニ　是れ

染る去字をうきり。いさつらるのるハ形容云々。この二つハ

爲声なよりなるめるとながめをハよりのるとハ於字のさまて

依声なこのけぢ色のこと指示云々條ふもいへり。松いそぐ風雅

とめるみまの妻るかぎ〳〵ハ依声なる式子内親王妻ニ　ニ　ものを

よれをきうみハ爲声なとなるべし。　さて所格の中みても所

与所役の二格ハてふをはの詞をるの詞りて関係最ひろきなぞ。

ニ　受仲云格　急山背類　記下　亟まーろニ　ハ　ハ　ハ

○所役格（ソヤクノサダリ）オ四　所役格ハ、仲云れトヒとにつきていめ「を」こしてゐをはあれバ其上る所仲云所役の格ゐるらとし。小説「稱冊詔」
掯「對兒把」你、この「掯把」の三字ハくる所役格ゐあされ是。又万四、法ゐてまゝ「りの」「ヲ」今ぞ悔しきけりの〜下ゐハ「ヲ」を係て受く。

乎受仲云格（ヲヲウケナカイフノサダリ）　覚目類（サマメノルイ）　古秋、山里ハ秋丁後ちくにてびゝ〜繁麻の姿を「見」を

古秋、ひとりのくゐがひゝるよりハめ訓宗わがをむ宗に極て「見」ま
「ゝ」を「ゝ」をバ「を」のをのさゝ。又、秋のきゝくゐあゐふゐ「ゐ」ゐ「ゐ」ゐ「ゐ」

○呼召格（ヨブサダリ）ヲ六てりよ　呼召格ハ、体言の上につけてよ・や・いで・すどゝ、こハ客位のてをえて、上の四格といいさゝゝの条と、ことこの呼召格と招呼感動云とハ大同小異ゝゝの条と、見合をて考ふべし。

與（ヨ）格　霜與（シモヨ）氷與（ヒヨ）類　千載式どろの歌のうゑ紀弼ぞ行りれる上毛の歌よゝめの　こゝりよ　後撰集をゝめる　ひぞそよ

其與（ソヨ）類後拾いで　そよ人を忘恵　不知與（シラヌヨ）恵　拾遺ゝをつゝてだよ　やハるる文代名云ゝ。　人の　ゝらぬよ

万せ、ゐが妹子がゝのびゐをよとゝをき、廻いとゝをるたゐハと　うじ　とよ　こハ合助辞ゝ。　古秋かぢうゝてよ　こハ使令法ゝ。

也（ヤ）格　八千矛（ヤチホコ）神命也（ヤ）類　記上須勢理姫　鳴也（ナリヤ）恵新古かのがつま恵つくるくや

也與（ヤヨ）格　也與時雨（シグレヨ）恵新古やよ時雨　物思ふ神のゝうりをバ本塚の後ゝ行　汐そめまの。　古友やよやまて　山郭公云つてんた。

伊傳（イデワレヨ）格　伊傳吾平（イデワレヨ）類　古忘いでわれを人をとがめそ大船のゆゝとのたゆゝと　ゝのゝりふゝころ　ぞこのいでハやよとゐじ。

すべて生与役奪の四格ハ、能格ゝ役ゝ。　臣位の助辞ゆゑゝ、ゝ　ゝくゝ　ゐとゝ法辞との中間ふゝるを呼召格ハ自立ゝる助辞ゝ　ゝがゆゑゝゝ或ときハゝ　ゐれ上ゝとゝち、或時ハ結辞の下にとつ　り語の中間ゝあるときハ其所ゝて切ゝゝ。故ゝこれをハ云

ゝらゝく客位の助辞とゝるのゝ。今ゝ六格の助辞を一つゝあつ　ゝ発てゝゝゝゝゝゝとへバ天津祝ゝ二柱の祝を天より地ゝ天降しゐ　ひ知ら上といゝゝゝゝ　ゝ　ゝ　

○現在格（メハサダリ）才七　現在格とハ現在用云を受る助辞に今それ用云と助辞とをあハせて、その受るさまをさとるべし。

現在用云

来　島　起　聞　く　受　解
経　寝　試　老　舊　率　得
言　摘　成　枯　植
借　も　痩　つ　捨　勝　往　恵　ふ　蒼　ゆ　洗　る
落　出　ぬ

引ハ居ナガラニメ受ル辞トナル

現在格

めり	らん	べき	以上ハる〜等ラ不受
らし			
ラ変	ざん	ざり	
とも	ども	まで	是ハる〜等ヲ受ル

聞くといふ詞ゆていちぐ。まづ聞くといふハ現在用云なれども鉄助辞に次ぬ聞くといふ詞ゑ。現在格の助辞をつきてきくめり。きくらん　きくべききくらし　といへバ。完助辞の詞とあるに。こゝを現在格とハいふ。ゑりゑ。きくゑん　きくゑり　きくと　るきくより　きくまで　いふものゑていゆる体云れ助辞の形をつきて　ハけ　るゑん等ハ。ゑ去格をゑてきくしゑるきくしゑん　しゑりきくしとも　きくしまでとも　いそゑられども　るら　るん等ハ。きくしゑりきくしらん　るぐくハいそれぬに。右の如　くゑるゑん等ハ。ゑ体云れ助辞の類なれども。きくしく現在用云を受るゑとゆゑ。ゑぐらくめりらん等ふゑ〜べて現在格とハ

引ハ居ナガラニメ受ル辞トナリめりらん等ハる〜ヲふ受りゑ　るん等ハる〜ヲ受ルとふことハ。ゑとへバ枯ると同じき流るといふ詞ゑて。れんゑ。ゑぐゑりゑといふハ下の現在格の助辞すて更てゑぐゑるめり　ゑぐゑらん　ゑぐゑるべき　ゑぐゑら　といふ格ゑゑるをゑぐゑる　といふと死ハる居ゑぐゑゑ。みづゑゑるを受る辞とゑ死に。されバゑぐゑ〜めりゑぐゑ〜らんゑぐゑハいそれぬに。志ゑりゑにゑるゑん等ハ。体云れ助辞の類ゑるがゆゑゑ。そのゑぐゑ〜といふ詞をゑうきてゑぐゑ〜ゑる　ゑぐゑ〜ゑるゑん　ゑぐゑ〜ゑり　ゑぐゑ〜とも　ゑぐゑ〜より　ゑぐゑ〜ゑでとも　いそゑ〜をいふゑる。ゑるゑる。と同格ゑり。

ゑくゑふるくハゑるを延てらくといへり。續紀詔。汝多知乃祖止母乃云来ゑ　万七。ゑらくゑくゑくゑふらくのかほきゑど。

ゑくゑ万五。又十五ゑどゑ泣ゑるをゑゆゑとらゑ。　同二十ゑどゑ厭ゑをいとそえといへるゑどハこゑ古語に。

ゑくゑ現在格の助辞のこゝろハ。めりめるめれらんらめら等ハ。有字の主べきべしべくべき等ハゑりとより可字ゑあこまり。

さて用云のこゝろ死ゑくさぐあれども。現在ゑ去未来三世の助辞格をこゝろうにしてゑ死と死ハ。用云のこゝろきハなのづゝら分明ゑるゑゑ。ゑよむ人みづゝくちによびこゝろをてさとゑ。ゑゑ。ゑべてけ格ゑ違ハざれバ。假字格ゑを誤ゑハゑきをのぞ。

現在助辞格久　須　都　奴　布　武　由　る　宇

免利めれ　良武らめ　倍曳べし　良志らき　加奈ろ　反奈武　奈利なれ　登毛　與利　万傳る

新古雲のかくれる　格とはじ

述而洋〻乎盈耳哉　學而可謂孝矣　卿黨唯謹再　子罕我叩其
西端而竭焉　學而亦可宗也　又始可與言詩已矣　又可謂好學
也已　子路無所苟而已矣　雍也其餘
則日月至焉而已矣　項羽紀項梁渡淮黥布蒲將軍亦以兵屬焉
儒林傳毅然鄉風矣

○過去格ハ已去格とハ已去用云を云る助辞なり。これ又二等あり。
一つまハ全過ふるいまハ未過し。

全過用云

末　爲
著　似　干　見　射
聞　借　勝　往　言　摘　成　率　居
起　落　受　痩　慰　試　枯　植
痩　捨　兼　解　誉　消　舊
寢　經　得

全過格

て　ん　つ　る　き　し　ば　ぬ　む　ら　な　ん

動うて　たなびうれをうどいふハ全已用云し。動うて
たなびうれて　をうてうどいふハ全已格のてりて全已用云をう
きくるしまさそのてふ同格の助辞分等をつきて動うてう
ア　たなびうれてうア　をうてうアうどもいうり。
全過格の助辞の分てハいそゆるてふをそのてすてそのそこ
らきいどひろしてぬてをてんてめてうりてうらして書んてし
てきうどハ同助辞の全ありたるし。ゆこつるつれつらんつ
いうどハてのそこきくるし。脚注ふ万葉の長あて豈ぞまく
といふことのもとゆるべきといへり。さるあるべしゆこつくふ
てよ通ふつくとなげくふ通ひてなゆるつくとあり。古歌ぬごそ
に秋ぞ出きのみぢつくうつろひゆくをかぎりとゆへバ。こハ
てよ通ふつくの例し。同歌考出考にきつくつゆふ故の実の

○語學新書下卷過去格　○二十

こゝに[illegible]をふるうゑ。是ハゑぐ〳〵に通ひて古ゆる[illegible]の例に。
まさ[illegible]る[illegible]もテアリ[illegible]トアリの二つより出[illegible]ればなもて
のそゝ〳〵記といめ[illegible]し。六帖をそとぐんいろ[illegible]べくもそ〳〵る。
くよこハトアリの[illegible]ま[illegible]ろ[illegible]こ。朗唱業。[illegible]ハぬま
[illegible]こハテアリの[illegible]ま[illegible]ろ[illegible]こ。次よ[illegible]ぬ[illegible]ん[illegible]め
[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

未過用云

け 聞 せ 借 て 勝 ね 往 へ 言 め 摘 え き 成 る

き ハ居ナガラニメ受ル辞トナル。

已去より現在ハ〻てハ。いまゞ全過ゝるゝゞる詞を未過とス。是ハすべて才三能格のこそその結びみな辞ニ。めゝまゝ上ハこそ。それ〻くゝて切る〻ゝ。ゝ死ハ。使令法の辞とあるゝ。其格ハ活用云の條ハさと云るがめし。今ゝの未過格ハ。右の詞どものこそ〻くゝて。語の法〻く所ハあるを。て。てへつゞくる辞ゝて。もるハち接續云に同じ。まゝけ未已格のゞをそぶく格万紫ゝ多し。万十。いとゝあきやハアレバヤ。四。又十五。かめへゝハ思へバカメ。四。又十二思へゝをハ思へバカモ。十。行すゝきゞハアレバソ。ゝ。一。天地もよりてあきてそもアレバコソニ。きハ居ナガラニメ受ル辞トナルとハ。ゝとへバゝ雷ゝなどのふるをふれともいひふれ〻ともいふ類こきニ。さて未過格のバどもハゝゞゞ体云け助辞の類ゝるがゆゝゝ五ゝふきゝ。ゝゞゞいふ詞をもうきて。ふきゝバふれ〻どふきゝども雲もいふなり。ゝゝさくらんゞゞいふ詞をハ。さくらめどゝるゝく。ゝる格ニ。古春。ゝもうもゝおゝじむゝゝゝゝさくゝゝめどゝ。ゝさゝゝてバゝりてバゝりセバゝゞのてゞせをハ。未來格の辞ゝて別ニ。

未過格

ば ど ども

未過助辞格

計 世 呂 祢 開 免 延 礼 恵

婆 ゆゝゝバ

土 をゝけど

土毛 をけども

流りとて ぬゝバ

ゝゝゝと ゝゝへバ

ゝゝゝバ ゝゝゝど ゝゝゝど

ゝゝゝど ゝゝゝど

さくらめど

をめども

ゝゝゝど ゝゝゝど

古哀傷つひゝゝゝゝ

○未来格（ユクサキガタリ）ヲ九　未来格とハ、未来用云ゆる助辞ゝ、ゆくすえに、此未来格ハ、現在過去の二格といさゝか異なる子細也。

未来用云			
か 解間	け 受解	き 起著	こ 来
さ 借	せ 痩	ち 落	せ 為
る 勝	て 捨立	に 似	ら ハ居ナガラニメ受ル助辞トナル
ハ 往	ね 寝	ひ 憂干	
ま 言	へ 辨経	と 試見	
や 猶	め 誓	い 老	
ら 成	え 消得	り 奪	
わ 植	ま 枯	ぬ 率居	

未来格		
ず	で	じ
ぬ	ん	す
ば 私なん		

弐未来格の現在ゆ去れ二格と異なるより、ハ、のの二格ハ、上の用云下の助辞なくてもみづから語をなしてきくきけなどくさ〳〵くをこの未来格ハ、上れ用云ふ下れ助辞をつきてきくんきかすなどいとさゝバ、語をなさぬゆゑ漢語ゆゑ、不字将字などをそへていふ語のごとしこれ未来格ゆゑ不字将字れさゝ、ぜでじ不ぬハ不字のきし、でハズレテ反ゼるを轉じてでといふゝ、まハじゆはじまくるなどハ不ぬゆはじん、すハ将字のきし、すハンカレの約まりなる詞がハんゆはじ、又もなりゆまり、ゆまくまるすうもすと同じ詞ゝ、ゆまバ、一種の助辞ゆて、てバせバなどこれゆ属ゆり。又頼なんハンニヤアランの約まりなる辞ゆて、ゆとへバ古今離別タぐれのよが死ハ山とそ〳〵なんハ忍エナンニヤアランと頼ゆさゝゆるとんとの中間の音ハねゆるがゆゑゆねとりふてもなんと同さの辞とゆる故ゝ同離別詞ゆ、そハ古ゆより「うへり多」とさ多がひひんるをりふなどあるハ、今ハ是ヨリ歸リナンニヤアランと頼ゆさゝ、すハンカレの約まりなる、なんハンニヤアランの約まり、ねハ十とンとの中間の音ゝとハ音韻のゆをわきまへさとせバ、なのづから、あきらめらるゝことゝ、なゆ悉談十二音出生の次第、喉舌脣三内の説などみる参考ゆべきことゆこそ、ンカレのンハ牙長舌内のムのめくンニヤアランのンハ牙舌内のニのめしこれを反切してこしろとてよゆゑしぬハなんの中間の音ゝとゆふハ、反切ゆハうかゝ〳〵別のことゝ。

ら、ハ居ナガラニメ受ル助辞トナルとハ、ゆとへバ見煮るなどの詞ハ忍ん、るこれ忍ら、ん煮ゆるゆれゆらんとやうにとゝ〳〵くゝ、古今春ゝてバ忍とやゆ忍ら、ん万葉十一、妻ゆのうとぎつゝてゆゝしをなどれごとし、こきらけとゝ〳〵きをら、ハ居なゞ〳〵ゝてこれそうきさて未来格のんゆゆづる格うんバゝ。

ゆる万十四、ゆのとゆかゆれかゆハ、ゆをカラバゝ。　同十三、まさかゝ〳〵よかゆハヨカラバゝ。

加 左 多 奈 波 万 也 良 和
計 世 豆 祢 開 免 延 礼 恵
幾 志 知 尓 比 美 伊 利 韋

受 ホ

君こぞて
あるでも人よ
うれあるてあまの
そまことも
ふんえをを
ふいをを
しををの
いをすを
ををて

傳

人はとひ
こで
あるふをを
せで
君あるで
けるるをで

兹 キヒ

見ハ
うるじ
あるとも
をすき
あらとも
ふ
人ハ忘を
そハうり
うるト

不奴 ヌク ヌヲ

こぬるの
ゆるる
光々
をくを
ふれどあるぬ
をくを
をくを
をくを
をくを
あひこぬ
をきを
しらくを
わをぬ
ふれ

吽 め モ ル

いさんね
ゆうん
ちてうさくん
そへいうるをも
人すうん
なるようんてん
こそとや
いをん
うんと
をーん
こひんと
をーん
ふとや
ふんらん
あくぶんん

さをりて
かうん
はぞさう
まうら
ちうるま
しうば
うそとい
そまを
たをを
ふんや
うれうる
らまう

万志まくま
まうら

ま

ふをすう
らば

あををを
ふうを

婆 セバ テバ ヌバ

ようせを
ををを
ちるを
でを
ゆうを
てぬば
ふふ
ひを
こひを

願奈武 ヌ

見ハおう
ぬん
見ハよせ
ぬん
ちひいで
ぬん
うちまね
ぬくん
ぬをと
いをぬん
うをも
そへぬん
ぬをあつま
ぬん
うをハ
とうぬん
ぬえ
ぬくん
ぬーハざ
らぬん
ようを
れぬん
ぬも
ぬをぬん

万十七。れどあうあきん　又そこもあうあそこのふハをあて
もるハち不飽より。
同ハ。をぬどういをを十二。たゞ名ふうあうも十四。今ハいう
みをを二よ捨みのうをんてやううを千載人もゞあれをも

きゝまを　ものられを　ハミるんと　同じ　まこと万四ゆきてそや　ゆんを
このゐもんし

ようゝん　ハヨクアラン　ヒ　ものきらん　ハシリテアラン　ヒ　こんらゝ
ゐこゝの格あてもそゐハちらをんまてうをゝる　ん
土左日記　まこまよゝ　ゝ　ゝ　といひてとちぬこのまゝ　ハマカラ
ンとゐふさん　今もまゝゐふ　四あり

万十七　ゆまくの　ゐ　ゐたゐゐをばよくハむを延さる辞ン
又このまくのくを省きて　ゆまゐ　きゝまゐ　ゐどもゐふ　拾遺
ゆまゝ紀　えをを重ねるへまハゐ
後撰長流　まやどゝを人のあゝまをバ　神ぎめまゐハたゝハぎ
らまゝ　このあゝまをバ　アランナリセバの約まりさる　ん
万三　又六　又八　又十二　狂ゐゝ　ゐ　同四　まてど　ゐ　る　又
いゐらえぎに　ぎてこをらハ未来格のぎを過去格ゆてう　ぎてる　ん
まこと万十六　発このゐをハ　ゐ　ゐ　ろこハ未来格のぎを　現在格
のらんゆて　ゐさる　と同格ゆて　ろハらん　とゐふまゐじる　べし
まこと後撰　ゐ　ハ　ゐ　ゐ　ゐ　ゝ　ゝ　ゝ

矣耳焉也者決辞也此時柳子槩言耳至清唐翼脩著作文譜乃引梁素冶曾虚字用法以也矣等字是與由此是以等字相爲接應者乎哉等是與豈盍等字相爲接應者不可誤也然如謂固如此乎乎字與順用辞呼應則未必唐氏之說也蓋助辞與順用辞對照則從順歌與逆用辞對照則從逆歌其順歌者多屬現在過去逆歌者率係未來助辞用法不過如是矣學人取準繩于此或免把筆徐々困行助辞詮再

いまゝたゝゝゝゝ附して初學の輩ゆゑ先況ふる後人うさぐひあらバあゝたゝ先てよ

用言三世能所中合図

現在			過去			未来		
能	所	中	能	所	中	能	所	中
うごゝを	うごゝさる〜	うごく	うごゝ〜き	うごゝされを	うごき〜	うごゝさんとを	うごゝされんとを	うごゝんとを
動之	被動	自動	嘗動之矣	嘗被動矣	嘗自動矣	將動之	將被動	將自動

未過			過〜		
能	所	中	能	所	中
うごゝをバ	うごゝさるれバ	うごけバ	動〜たりゝ	動〜されたりゝ	うごきたりゝ
動之則	被動則	自動則	先是既動之矣	先是既被動矣	先是既自動矣

以上用ゑ助辞三格

附録依語法釈歌文例

筑と根 各称実の格 所生 峯 統称実仲云 よ里 所奪格 かつる 下ゝ みなゝ川ゐ 饋く 現在連仲云の格 みなゝ川

各称実仲云このみなゝ川の下に同等形容云ゝのを省きたり。ゑ統称実仲云 ぞ ゐ二 ゝをゝハちけのを添て字くをて。の如くすといふ義を含めり。

能主格ゐてけ一 積て過去活用云 て 過去淵統称実仲云 ゝ 所与格ゐ 成り 過去活用云 ゝ ゝ

過去格ゝ ぬと可ぢく。ゐ二純格の活辞ゝをゝハち民ゝをでての主ハ筑と根乃峯よ里ゑるみなゝ川のめくに。ゑぞ積て淵とゝりぬゝといへるゝり。

學而學ハ過去活用云時習之時ハ時令形容云習ハ現在活用云之ハ不亦不ハ而ハ康反接續云 再說代名云て省きる道字ゝ主ゝ。

格ゐハ合說乎說ハ未来活用云乎ハ疑問法すべての主ハ人曾學道而後時く連接續云 復習之莫不也有善悦處麼といへるゝり。

續語學新書全部一冊

銅刻

此書ハ西洋の十品四格及缺助辞完助辞等を比例〻て印度の八轉声十羅声等を隠さ〻るを索発り唐の開元十二年ゆ中天竺の善無畏の譯しなる大日経疏巻才五ゆ載さ〻る偈の梵文を皇国ゑ社帝尓乎波法ゆあハきて新譯を加へ〻る語學一助の書ゑ里

鶴峯季尼先生著

八科捷法目録

第一 詩學捷法 是ハ初學ノ輩ニ、タヤスク詩文ヲツヾルヿヲ得サスル法十リ。熟字ノ定式。助字ノ用法。同訓異義ノ字面。體用主客ノ要領ニ至ルマデクハシクサトス。詩文類語。史記類語等ノ書。此部ニ属セリ。

第二 歌學捷法 是ハ初學ノ輩ニ、タヤスク歌詞ヲツヾルヿヲ得サスル法十リ。句ノ作リヤウ。趣向ノツケヤウ。カヽリムスビノ格式。假字ヅカヒノ心得。カツ調ニ古今ノ諸體有ルヿマデクハシクサトス。

第三 韻學捷法 是ハ韻鏡ノ本義。九弄ノ指示ヨリ。字典ノ切韻要法。字彙ノ直横二圖ノ是非ニ至ルマデクハシクサトシ。反切ノシカタハ云

ニ及バズ、スベテ四萬ニ近キ漢字ノ漢音、呉音、唐音ヲ、自在ニ論ゼレム、

第四 梵學捷法

是ハ悉談、毘佉羅、八轉聲ノ軌則ヲクハシクサトシ、且ツ大日經疏卷第五ニ載セタル偈ノ梵文ヲ、皇國言ニ譯メ、飜譯ノ大體ヲレメス、八轉十羅ノ考、此書ヨリクハシキハ無シ、

第五 蘭學捷法

是ハ「アベセ」ノ韻字切字ノ本音ヲ詳カニメ、蘭字釀音ノ法ヲクハシクサトシ、且ツソノ語法ニモトヅキテ、蘭書飜譯ニ至テ便利ナルシカタ有ルヿヲ詳カニシ、讀書メス、

第六 語學捷法

是ハ言語ニ九品、助辭ニ九格アルヿヲ詳カニシ、讀書作文詠歌ノ要領、スベテ藝文ノ活法ヲサトス、此部ニ語學新書有リ、詞ノ玉、緒、紐、鏡、カザシ、脚結、八衢等ニイマダ盡サヾル所ヲ明ラカニ論定セリ、

第七 理學捷法

是ハ西洋究理家發明ノ說ノ、謀ラズメ、我帝國ノ古傳說ニ相類スルヲアゲテ、天地日月萬物ノ理ヲ詳カニシ、天理ニモトヅキテ、人道ノ大本ヲサトス、天柱、及ビ三才究理頌等ノ書ハ、皆此部ニ屬セリ

第八 數學捷法

是ハ九九ノ札ヲ以テ、八算、見一、開平、開立等ノ捷法ヲヒラキ、且ツ天元、筆算ノ入式、根發、見盤ノ用法ニ至ルマデヲクハシクサトス、籌式捷法等ノ書此部ニ屬セリ、

右八科ノ部中、既ニ上木ニ及ベル書ハ、ワヅカニ五六部ニ過ズ、他日相ツイデコトヾク究理塾ノ藏刻トナシテ同臭ノ士ニオクルベシ、

モシ速カナランヿヲ欲セバ、直チニ塾ニ就テ筆受ノ可ナリ、

三河　利光宗規　識

後學牧書の志ゝ人よ志ゝるあ
おの生志ゝ志ゝ人とゝなりていまゝ学のよもしとゝ人ゝゝてゝ
けるを母ゝ家人のゝゝゝゝ理ゝのゝしゝよゝきゝゝひまゝてわ
の生ゝのゝゝ生ゝ保ゝよゝわ家のゝゝふゝゝゝひゝゝゝゝゝ海の
ひゝ重ゝ日ゝを人ゝまゝゝゝゝゝ

[illegible]
社てゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

大坂のたつみ[illegible]に[illegible]
[illegible]
なくゝ一つるに物[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]